

平成 27 年度
(2015)
事業報告書

社会福祉法人 山輝会
ウェルフェア・グランデ明石
プライム江井ヶ島

平成 27 年度 (2015) 社会福祉法人山輝会事業報告書

ウェルフェア・グランデ明石

- ・ 特別養護老人ホーム部門 (本館) P 1 ~
- ・ 特別養護老人ホーム部門 (アネックス) P 1 1 ~
- ・ 通所介護うらら部門 P 1 3 ~
- ・ 通所介護きらら部門 P 1 5 ~
- ・ 訪問介護部門 P 1 7
- ・ きぬがわ居宅介護支援事業部門 P 1 8
- ・ グループホームプリランテ明石部門 P 1 9
- ・ 総務部門 P 2 0

ブライム江井ヶ島

- ・ 特別養護老人ホーム部門 P 2 1 ~
- ・ 短期入所生活介護部門 P 2 9
- ・ 通所介護部門 P 3 0 ~
- ・ 居宅介護支援部門 P 3 2
- ・ データ集 P 3 3 ~

平成27年度事業報告書

報告日	平成28年 4月15日
部門名	生活課
責任者	三谷 彰

収入 稼働率	項目	累 計	
		稼働率	収 入
	目標	96.0%	253,000千円
	実績	96.4%	276,375千円
	差異	0.4%	23,375千円
	達成率	100.4%	109.2%

視 点	重点取組課題	目標値	総 括																								
財務状況の改善 (資料 I)	感染症の予防に取組む 体調の変化に早く気付く	特養 稼働率 98% 入院空床 300床以下/年	<p>合算稼働率 96.4%</p> <p>【特養】</p> <p>年間稼働率 97.4%</p> <table border="0"> <tr> <td>新規入居者</td> <td>10名</td> <td>退居者数</td> <td>10名 (死亡退居 7名 長期入院3名)</td> </tr> <tr> <td>総空床数</td> <td>509床 (前年比 + 199床)</td> <td>入院による空床</td> <td>431日 (前年比 + 251日)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>退居による空床</td> <td>76日 (前年比 - 49日)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>外泊による空床</td> <td>2日 (前年比 - 3日)</td> </tr> <tr> <td>延べ入院者数</td> <td>16名 (前年比 + 5名)</td> <td>平均入院日数</td> <td>26.9日 (前年比 + 10.6日)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>入退居時の平均空床</td> <td>7.6日 (前年比 - 0.9日)</td> </tr> </table> <p>・稼働率は特養単独では目標値を下回ったが、短期入所との合算で目標を達成することができた。 入退居は10名と例年に比べ安定していたが、入院者の増加が稼働率低下に繋がった。健康管理については看護職員を中心に早期発見、早期対応を実践する事で重症化を予防することができた。反面、骨折による入院が5件(入居3件、短期2件)あり、長期入院の大きな要因となったことが反省として挙げられる。また、転倒、服薬管理など、重大事故に繋がる危険性の高い事象も増加傾向にあり、事故防止の重要性を再認識させられた1年となった。 ・12月に4階で胃腸風邪が流行したが、幸い重症化する利用者はいなかった。車イスの清掃はフロア毎に担当者を決める等して清潔保持に取組んだが、清潔な住環境の整備が十分であったとは言えず次年度の課題となった。</p>	新規入居者	10名	退居者数	10名 (死亡退居 7名 長期入院3名)	総空床数	509床 (前年比 + 199床)	入院による空床	431日 (前年比 + 251日)			退居による空床	76日 (前年比 - 49日)			外泊による空床	2日 (前年比 - 3日)	延べ入院者数	16名 (前年比 + 5名)	平均入院日数	26.9日 (前年比 + 10.6日)			入退居時の平均空床	7.6日 (前年比 - 0.9日)
	新規入居者	10名	退居者数	10名 (死亡退居 7名 長期入院3名)																							
	総空床数	509床 (前年比 + 199床)	入院による空床	431日 (前年比 + 251日)																							
			退居による空床	76日 (前年比 - 49日)																							
		外泊による空床	2日 (前年比 - 3日)																								
延べ入院者数	16名 (前年比 + 5名)	平均入院日数	26.9日 (前年比 + 10.6日)																								
		入退居時の平均空床	7.6日 (前年比 - 0.9日)																								
状態に適した要介護認定を受ける	平均介護度 3.7	<p>・平均介護度は3.75(年度末)となっており、加算の算定を維持する為、今後も重度化はすすむが見込まれる。 尚、介護認定変更申請手続きの実施件数は5件(年度内)であった。</p>																									
SS利用者に喜んで頂けるサービス、居住空間を整備する	SS 稼働率 90%	<p>【短期】</p> <p>年間稼働率 93.9%</p> <table border="0"> <tr> <td>新規利用者</td> <td>35名 (前年比 - 8名)</td> </tr> <tr> <td>リピート率</td> <td>74.3% (前年比 + 2.2%)</td> </tr> </table> <p>・稼働率は年間通じて高い数値を維持することができ、特養の空床ベッドを活用することで8月には月間稼働率101%を達成することができた。今後も安定した稼働率を維持する為、次年度はリピーターを大切にしながらも新規利用者の獲得を重点取組み課題とする。 ・ショートステイのパンフレットを作成して居宅介護支援事業所への営業活動時に配布した。空床情報についてはホームページの更新や月初の提供票に同封して案内を実施し、急なキャンセル等にもケアマネへの電話連絡を積極的に行う事でロスを最小限に留めた。 ・他施設との差別化、質の向上を目的として、1月よりデイサービスとの共通ポイントカードを導入した。 ・ショートステイ利用者対象の余暇活動は実施できなかったが、通信カラオケの導入、ブルーレイレコーダーを活用した音楽レクの提供などは利用者喜んで頂くことができた。また、居住環境の整備として、和室用の畳、テレビ、時計、ゴミ箱を購入して設置した。</p>	新規利用者	35名 (前年比 - 8名)	リピート率	74.3% (前年比 + 2.2%)																					
新規利用者	35名 (前年比 - 8名)																										
リピート率	74.3% (前年比 + 2.2%)																										
コスト削減	オムツ代 前年比減	<p>・オムツ代金は2,757,232円/年間(前年比 103.2%)となり、コスト削減には至らなかった。排泄委員会が中心となりケア内容、アイテムの見直しを実施したが、数値的な結果には結びつかなかった。 平成28年2月よりオムツの製品変更を実施したことで、月間2割程度のコスト削減を達成することができており、次年度以降も引き続き目標を明確にしてケアの改善に取組みたいと考えている。</p>																									

視 点	重点取組課題	目標値	総 括						
	お年寄り、家族のニーズに応える		<ul style="list-style-type: none"> ・計画書の更新を行う事はできたが、ケアプラン、個別援助計画の活用については議論を重ねるも明確な結論を出すことができず次年度への持越し議題となっている。 ・家族参加行事は年間計画に基づき実施し、延べ134名の家族様に参加して頂くことができた。参加される家族様に偏りはあるものの、面会のきっかけや、職員との関係性を深める良い機会として次年度も積極的に計画する予定である。遠方の家族様には手紙や写真を送付する等、近況報告を行い関係性を深める取組みも実施している。 <p>【行事企画の家族参加者】</p> <table border="0"> <tr> <td>全体企画</td> <td>延べ 74名</td> </tr> <tr> <td>3階フロア企画</td> <td>延べ 33名</td> </tr> <tr> <td>4階フロア企画</td> <td>延べ 27名</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・下半期より家族様にサービス担当者会議への出席案内を行いニーズの引出し、ケア方針の共有に努めた。 ・今年度よりケアマネージャーが変更になったが、現場職員からの異動でもあり、行事や会議などで家族様との接点も多かったため特に支障はなくスムーズな引継ぎを行うことができた。 ・家族様参加の担当者会議 延べ 9回 	全体企画	延べ 74名	3階フロア企画	延べ 33名	4階フロア企画	延べ 27名
全体企画	延べ 74名								
3階フロア企画	延べ 33名								
4階フロア企画	延べ 27名								
サービス力の強化	<p>皆で勉強して介護力を高める (資料Ⅱ)</p> <p>食事環境を整える</p> <p>トイレで排泄する</p> <p>介助技術を習得する</p>	<p>雇用形態を問わずに参加する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修計画に基づき、同じ内容の研修会を複数回実施することで雇用形態に関係なく多くの職員に学びの機会を提供することができた。 ・内部研修のあり方に関しては、課内職員全員が基本知識、技術を習得できるような仕組み作りを検討していきたい。 ・食事時の座席レイアウト、職員の役割分担を見直し、落ち着いた環境で食事を提供できるように努めた。また、食事委員会が中心となりシーティングの研修会に参加し、対象者を決めて食事姿勢の改善に取り組んだ。 ・オムツの使用量が増加したことを受け、排泄ケアの見直しに取り組んだ。コスト面など、目に見えた成果には繋がらなかったがトイレでの排泄を取り戻された利用者様もおられ、個性を重視した継続した取組みが必要であると再認識させられた。 ・年間通じて入浴委員会主催の介護技術研修会を実施した。参加人数が少なかったが、参加者からは基本を学ぶ良い機会になる、知らず知らず我流になっていることに気づけた等の前向きな意見も聞かれた。今年度からの取組みであり目に見える形での成果には繋がっていないが、次年度以降も継続することで基本技術の底上げを図りたい。 ・福辺先生の技術研修(法人研修)に6名が参加したが、感覚的な部分が難しいとの声が多く参加者であっても習得するまでには至っていない。声掛けの大切さや介助者の姿勢の重要性など基本的な考え方は伝達研修で共有することができた。 ・次年度も同様の研修が予定されているため、日々のケアにも積極的に活用して職員全体の技術力向上に取組みたい。 						
	社会人としての基本マナーを身につける		<ul style="list-style-type: none"> ・申し送り時にマナー目標を唱和して毎月の会議でモニタリングを実施(3階)、あいさつ運動の実施(4階)など、接遇マナーの向上を意識した取組みを継続した。 ・3月に家族様を対象とした接遇マナーのアンケートを実施した。挨拶や言葉遣いなどは優しい評価を頂いたが、フロア的环境や要望等の伝えやすさは改善の余地があり、ご指摘頂いたコメントを真摯に受け止め改善に繋げたい。 <p>【アンケート回答者】</p> <table border="0"> <tr> <td>入居者ご家族様</td> <td>34名</td> <td>ショートステイご家族様</td> <td>17名</td> </tr> </table>	入居者ご家族様	34名	ショートステイご家族様	17名		
入居者ご家族様	34名	ショートステイご家族様	17名						
業務の改善	<p>活発な討議がされ、結論の出る会議にする</p> <p>記録で正しく情報を伝える</p>	<p>皆が準備をして会議に臨む</p> <p>皆が共通認識を持つ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に各種会議を定例化したのが、人員不足や他の行事企画などで日程を再調整する機会が多かった。 ・時間厳守の意識が少しずつ根付いてきたため開始時間が大幅にズレ込む事はなくなったが、カンファレンスや担当者会議では議事内容と時間のバランスが合わず、検討が不十分であったり、時間超過になることもあった。限られた時間で効率よく会議運営をするために、今後は議題の絞込みや進行役のスキルアップに取組み必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン共有フォルダに業務日誌を保存して24時間閲覧可能にしたこと、各種議事録や報告書などは各部門にコピーを配布したことで、職種間の情報共有はスムーズに実施できるようになった。また、業務日誌の書式変更や、下半期からは申し送り時に重要事項を口頭確認するなど、様々な手段で情報発信、収集が行える仕組みづくりを行い一定の成果が出ている。 ・掲示物は各フロアに担当者を決め、掲示方法を工夫する等、見やすく、見落としのない方法に変更した。 ・書類の提出期限に関しては課内全体がルーズな傾向にある。記録時間の確保と併せて改善を急ぐ必要がある。 						

視 点	重点取組課題	目標値	総 括
業務の改善	ルーチン業務の効率化	マニュアルの周知徹底	・前年度より持ち越し課題となっていた課内の業務マニュアルを整備して、生活課職員マニュアルを作成した。今後は日常業務はもちろん、職員指導や研修会等でも活用してサービスの質の底上げや業務の効率化に繋げる。
人材・組織力の強化	人材を大切に育てる	仲間として互いを認め尊重する	・入職時のオリエンテーションは昨年度末に作成した冊子を用いて時間を割き丁寧に実施した。しかしながら、介護現場では人員確保が困難であり、年間通じて派遣職員に頼らざるを得ない状況であった。人材育成の重要性は理解しつつも、日々のサービス提供を維持することに追われてしまい目立った取組みを行うまでには至らなかった。 そのような状況下でも新卒者4名を迎え、プリセプターを中心に職員皆が丁寧な関わりを持つことで確かな成長を感じ取ることもできた。
	部署間の協力体制を築き、チーム力を高める	「ダメな事はダメ」と言える	・職員間のコミュニケーションは「伝える側」「受ける側」の認識のズレが大きかった。とりわけ注意や指導に関してはタイミングや伝え方などが難しく誤解が生じる場面も多かったと感じている。 仕事として言うべき事をきっちり伝える事、そして謙虚に受止める姿勢、どちらも大切な事であり一人一人が意識して取組んでいきたい。 ・外出や受診などは職種間で相談、調整を行い協力して実施することができた。
	職員の一体感を高める		・今年度は部署長の退職をはじめ役職者の人事異動も多かったことから、課内の一体感を高め協力体制を強化するため、歓迎会、新年会など職員の親睦を深める機会を大切にした。 楨本先生に教わった人間力の向上を皆が意識することで、職員同士が話をしやすくなったとの声が聞かれている。まだまだ小さな一歩ではあるが、主任を中心に仲間を認め、支え合う組織風土が少しずつ芽生え始めており、継続した取組みが必要であると感じている。

平成27年度 生活課 事業報告(資料 I)

No. 1 ベッド稼働率

【平成27年度 特養(本館)稼働状況】

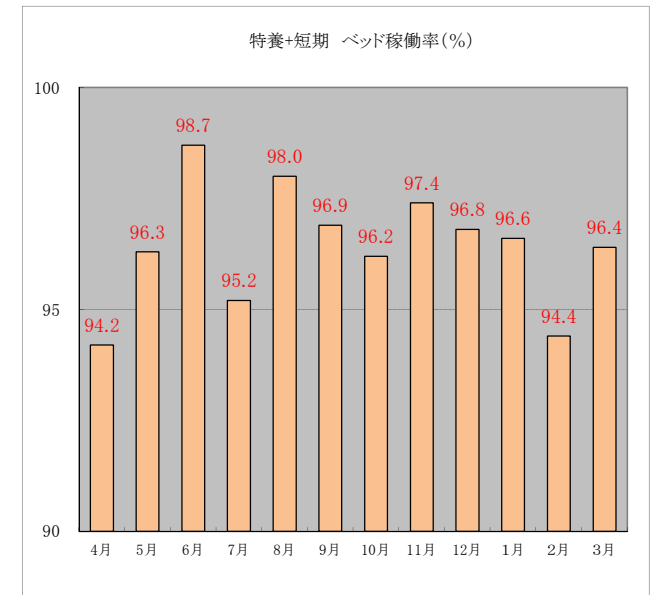
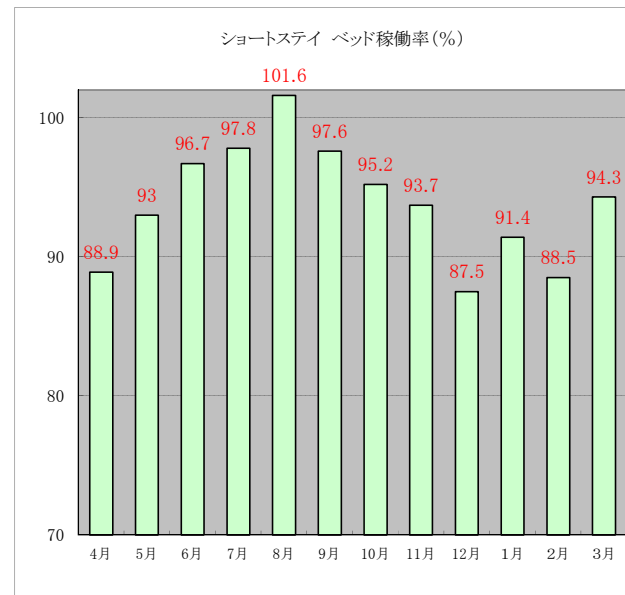
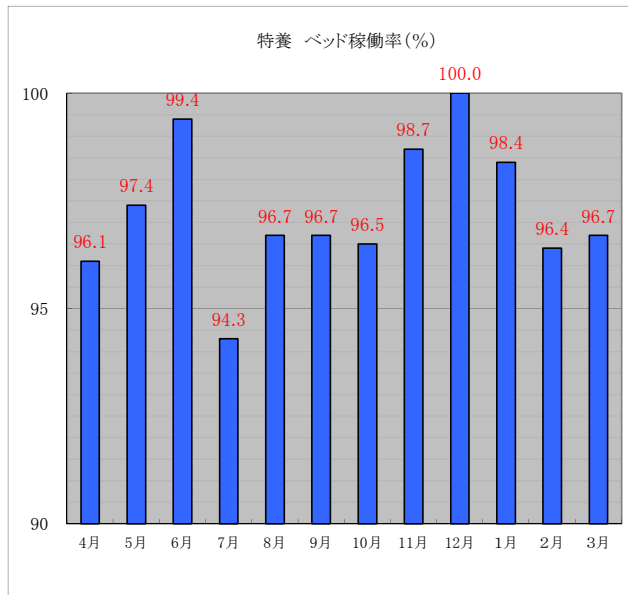
月	本来日数	実日数	稼働率	入居	退居	退居理由	入院日数	外泊日数	空床日数	空き合計
4	1560	1499	96.1%	0	1	長期入院	61	0	0	61
5	1612	1570	97.4%	1	0		33	0	9	42
6	1560	1550	99.4%	1	1	死亡	2	0	8	10
7	1612	1520	94.3%	2	2	死亡	80	0	12	92
8	1612	1559	96.7%	1	1	死亡	43	1	9	53
9	1560	1508	96.7%	0	0		52	0	0	52
10	1612	1556	96.5%	3	3	長期入院、死亡	36	0	20	56
11	1560	1539	98.7%	1	1	長期入院	12	0	9	21
12	1612	1612	100.0%	0	0		0	0	0	0
1	1612	1587	98.4%	0	0		24	1	0	25
2	1508	1454	96.4%	0	0		54	0	0	54
3	1612	1559	96.7%	1	1	死亡	34	0	9	43
合計	19032	18513	97.3%	10	10		431	2	76	509

【平成27年度 短期入所生活介護 ベッド稼働率】

月	本来日数	実日数	稼働率(%)
4	540	480	88.9%
5	558	519	93.0%
6	540	522	96.7%
7	558	546	97.8%
8	558	567	101.6%
9	540	527	97.6%
10	558	531	95.2%
11	540	506	93.7%
12	558	488	87.5%
1	558	510	91.4%
2	522	462	88.5%
3	558	526	94.3%
合計	6588	6184	93.9%

【平成27年度 特養+短期 ベッド稼働率】

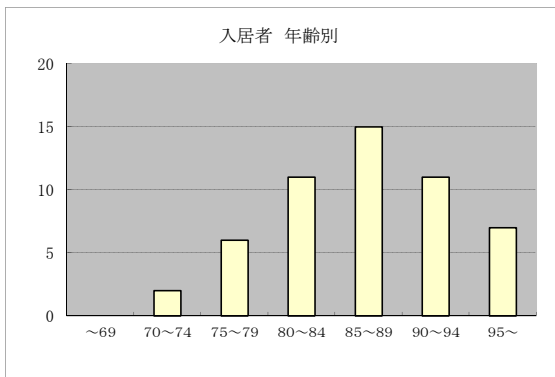
月	本来日数	実日数	稼働率(%)
4	2100	1979	94.2%
5	2170	2089	96.3%
6	2100	2072	98.7%
7	2170	2066	95.2%
8	2170	2126	98.0%
9	2100	2035	96.9%
10	2170	2087	96.2%
11	2100	2045	97.4%
12	2170	2100	96.8%
1	2170	2097	96.6%
2	2030	1916	94.4%
3	2170	2085	96.1%
合計	25620	24697	96.4%



【平成28年3月31日現在 本館入居者 年齢・在所期間・要介護度 一覧】

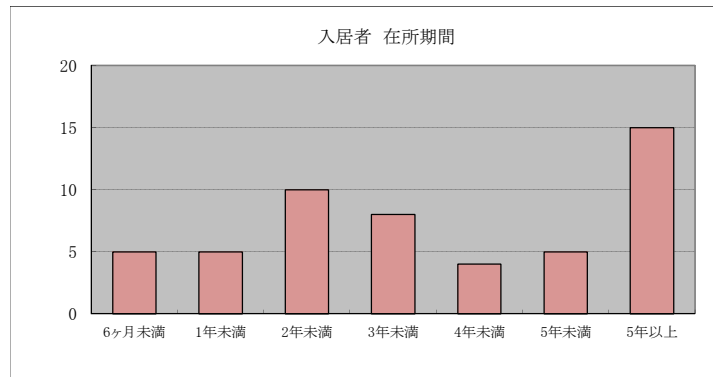
《年齢別》

年齢(歳)	人数(人)	%
～69	0	0.0%
70～74	2	3.8%
75～79	6	11.5%
80～84	11	21.2%
85～89	15	28.8%
90～94	11	21.2%
95～	7	13.5%
合計	52	100.0%
平均年齢 86.7歳 (男性 81.3歳 女性 87.8歳)		



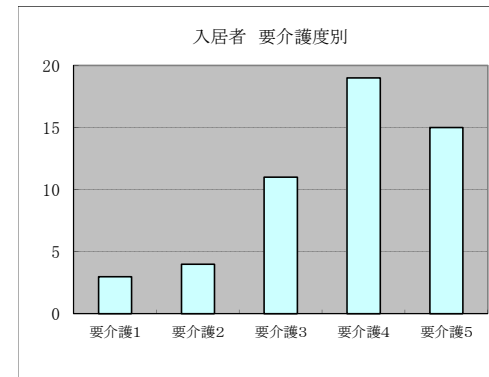
《在所期間》

在所期間	人数(人)	%	男性(人)	女性(人)
6ヶ月未満	5	9.6%	1	4
1年未満	5	9.6%	0	5
2年未満	10	19.2%	2	8
3年未満	8	15.4%	1	7
4年未満	4	7.7%	0	4
5年未満	5	9.6%	2	3
5年以上	15	28.8%	3	12
合計	52	100.0%	9	43
平均在所期間 3年8ヶ月4日 (1,342日)				



《要介護度別》

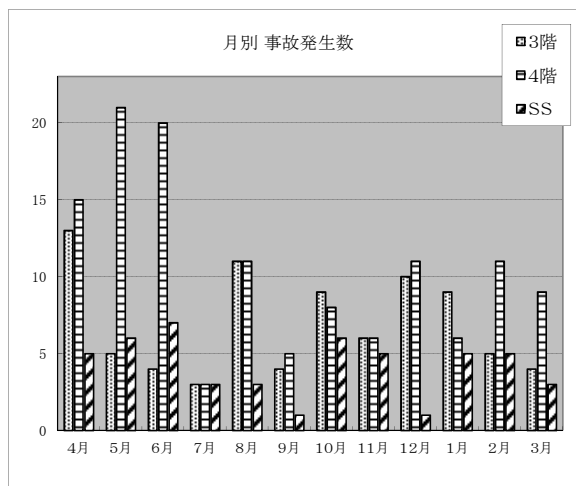
介護度	人数(人)	%
要介護1	3	5.8%
要介護2	4	7.7%
要介護3	11	21.2%
要介護4	19	36.5%
要介護5	15	28.8%
合計	52	0.0%
平均介護度	3.75	



No. 2 事故発生数

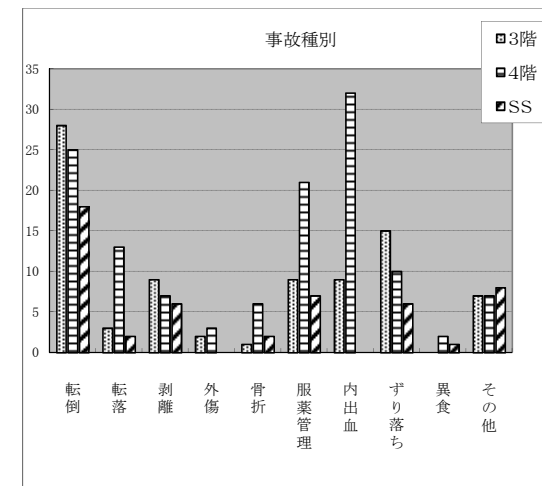
《月別 事故発生数》

月	3階(件)	4階(件)	SS(件)	計(件)
4月	13	15	5	33
5月	5	21	6	32
6月	4	20	7	31
7月	3	3	3	9
8月	11	11	3	25
9月	4	5	1	10
10月	9	8	6	23
11月	6	6	5	17
12月	10	11	1	22
1月	9	6	5	20
2月	5	11	5	21
3月	4	9	3	16
計	83	126	50	259



《事故報告 内訳》

種別	3階	4階	SS	計
転倒(座り込み含む)	28	25	18	71
転落	3	13	2	18
剥離	9	7	6	22
外傷	2	3	0	5
骨折	1	6	2	9
服薬管理、与薬ミス	9	21	7	37
内出血	9	32	0	41
ずり落ち	15	10	6	31
異食	0	2	1	3
その他	7	7	8	22
私物管理、暴力等				
合計	83	126	50	259



No. 3 行事・企画 実績

《全体企画》

実施年月日	企画・行事名	入居者・SS	家族	ボランティア
平成27年 9月 20日(日)	敬老会	70名	39名	25名
平成27年 12月 13日(日)	忘年会	70名	35名	4名
平成28年 1月 1～11日	正月祝い(元旦、書初め、カルタ大会、初詣、鏡開き)	延218名	0名	0名

《フロア、SS企画》

実施年月日	企画・行事名	入居者・SS	家族	ボランティア
平成27年 5月 31日(日)	3階フロア企画「たこ焼き作り」	32名	2名	0名
平成27年 6月 28日(日)	3階フロア企画「日帰り旅行 須磨海浜水族園」	11名	11名	0名
平成27年 7月 20日(月)	3階フロア企画「茶話会」	10名	11名	0名
平成27年 8月 2、9日(日)	3階フロア企画「小前様 米寿祝い」	33名	2名	0名
平成27年 10月 26日(月)	3階フロア企画「鬼まんじゅう作り」	34名	0名	0名
平成27年 11月 4日(水)	3階フロア企画「戎井様 百寿祝い」	15名	1名	0名
平成27年 11月 27日(金)	3階フロア企画「日帰り旅行 神戸散策」	8名	6名	0名
平成28年 2月 3日(水)	3階フロア企画「節分行事」	30名	0名	0名
平成28年 2月 23日(火)	3階フロア企画「ワッフル作り」	34名	0名	0名
平成27年 5月 26日(火)	4階フロア企画「おはぎ作り」	35名	0名	0名
平成27年 6月 14日(日)	4階フロア企画「日帰り旅行 びわ狩り in 淡路島」	12名	9名	0名
平成27年 7月 9日(木)	4階フロア企画「餃子パーティー」	32名	0名	0名
平成27年 7月 19日(日)	4階フロア企画「茶話会」	0名	12名	0名
平成27年 7月 21日(火)	4階フロア企画「山下様 米寿祝い」	7名	1名	0名
平成27年 9月 16日(水)	4階フロア企画「居酒屋ツアー」	3名	2名	0名
平成27年 10月 11日(日)	4階フロア企画「日帰り旅行 神戸ウイナリー」	8名	3名	0名
平成27年 11月 26日(木)	4階フロア企画「さつまいも料理(お菓子)作り」	36名	0名	0名
平成27年 12月 17日(木)	4階フロア企画「焼肉パーティー」	9名	0名	0名
平成28年 2月 3日(水)	4階フロア企画「節分行事」	31名	0名	0名
平成28年 3月 2日(水)	4階フロア企画「たこ焼き作り」	21名	0名	0名
平成27年 5月 20、21日	SS外出企画「明石公園」	4名	0名	0名
平成27年 8月 5、6日	SS外出企画「イズミヤフードコート」	4名	0名	0名
平成27年 10月 28、29日	SS外出企画「明石公園 菊花展」	4名	0名	0名
平成27年 11月 18、19日	SS外出企画「カフェレストラン ムーミンババ」	4名	0名	0名

No. 4 実習生・研修生 受け入れ実績

年月日	実習名	学校名等	人数
平成27年4月16日～17日	兵庫県新任職員研修「福祉実習」	兵庫県	2名
平成27年8月3日～9月7日	ソーシャルワーク実習	神戸親和女子大学	1名
平成27年8月6日～9月7日	ソーシャルワーク実習	関西福祉大学	1名
平成27年9月28日～10月2日	早期臨床実習 1	神戸大学	2名
合 計			6名

No. 5 研修実績

※ 内部研修報告書(資料 II)は別紙 添付

【施設外研修 参加実績】

年月日	研修名・講師・主催者等	参加人数
平成27年 5月 20日(水)	新任リーダー研修 久田 則夫 先生	1名
平成27年 5月 28日(木)	平成27年度 老人福祉施設新任職員研修 兵庫県社会福祉協議会	1名
平成27年 6月 2日(火)		2名
平成27年 6月 9日(火)		1名
平成27年 6月 10日(水)	新任リーダー研修 久田 則夫 先生	1名
平成27年 6月 16日(金)	「福辺流 これまでの介助との違い、メリット」 福辺 節子 先生	1名
平成27年 6月 30日(金)		
平成27年 6月 25日(木)	東播磨ブロック研修「排泄ケアで変わる、なるほどなっとく介護」 三好 春樹 先生	6名
平成27年 7月 22日(水)	平成27年度 兵庫県認定調査員研修	1名
平成27年 8月 31日(月)	介護職員等終末期ケア対応向上研修会 兵庫県老人福祉事業協会	1名
平成27年 9月 8日(火)	東播磨ブロック研修「高齢者施設における転倒事故は減らせる」 鳥海 房枝 先生	5名
平成27年 10月 7日(水)	東播磨ブロック研修「する人される人、どちらも幸せになる 介助術」 福辺 節子 先生	4名
平成27年 10月 19日(月)	ストレスマネジメント研修 上田 依句子 先生	1名
平成27年 11月 20日(金)	ノロウイルス感染予防対策等研修会 明石給食施設協議会	1名
平成27年 12月 3日(木)	高齢者虐待対応力向上研修 兵庫県	1名
平成27年 12月 9日(水)	チームアプローチ実践研修 青木 将幸 先生	2名
平成28年 1月 21日(木)	東播磨ブロック研修「スタッフ、介護職を育てるために何が必要か」 高口 光子 先生	5名
合 計		34名

No. 6 会議開催実績

【3階フロア会議】

年月日	主な議題
平成27年4月8日(水)	事業計画の推進方法
平成27年5月7日(木)	事業計画の進捗状況確認
平成27年5月29日(金)	フロアレイアウトの見直し
平成27年6月4日(木)	事業計画の進捗状況確認
平成27年6月26日(金)	余暇活動の取組み
平成27年7月28日(火)	各委員会より
平成27年8月27日(木)	ショートステイ忘れ物対応
平成27年9月12日(土)	排泄ケア、事業計画の推進
平成27年9月28日(月)	排泄ケアの見直し
平成27年10月23日(金)	服薬介助
平成27年11月26日(木)	食事の業務分担、各委員会より
平成27年12月29日(火)	決定事項の周知徹底の方法
平成28年1月29日(金)	服薬管理の事故防止
平成28年2月29日(月)	SS利用者の衣類管理
平成28年3月24日(木)	部門実行計画の振り返り

【4階フロア会議】

年月日	主な議題
平成27年4月17日(金)	事業計画の推進方法
平成27年5月7日(木)	事業計画の進捗状況確認
平成27年5月29日(金)	事業計画の進捗状況確認
平成27年6月9日(火)	フロアレイアウトの見直し
平成27年6月23日(火)	業務分担の確認、見直し
平成27年7月22日(水)	フロアレイアウト、業務分担
平成27年8月13日(木)	業務マニュアルのモニタリング
平成27年9月24日(木)	情報共有の方法
平成27年10月22日(木)	仕事のやり方、すすめ方
平成27年11月10日(火)	フロアレイアウト、業務分担
平成27年11月24日(火)	各種重要事項の伝達
平成28年1月25日(月)	SS細目様からのご指摘について
平成28年2月20日(土)	夕食時の職員の役割分担
平成28年3月24日(木)	部門実行計画の振り返り

【リーダー会議】

年月日	主な議題
平成27年4月3日(金)	各種マニュアルの整備、新卒研修
平成27年5月13日(水)	事業計画の推進方法
平成27年6月16日(火)	事業計画の推進方法、人材育成
平成27年7月21日(火)	内部研修、ケアプラン・サービスプラン
平成27年8月26日(水)	業務マニュアル、オムツ会社変更
平成27年9月15日(火)	入浴時の事故防止、業務マニュアル
平成27年10月15日(木)	上半期の振り返りと下半期の活動計画
平成27年11月19日(木)	情報共有、ヒヤリハットの活用
平成28年1月14日(木)	決定事項のモニタリング、人事関係
平成28年2月16日(火)	次年度事業計画の立案
平成28年3月3日(木)	次年度業務分担等の決定

【生活課会議】

年月日	主な議題
平成27年4月3日(金)	課内体制、ケア方針の確認
平成27年6月29日(月)	業務マニュアルの修正
平成28年2月15日(月)	次年度事業計画の立案
平成28年3月22日(火)	次年度事業計画、人事考課の説明

【ショートステイ会議】

年月日	主な議題
平成27年5月16日(土)	パンフレット、ポイントカードの準備
平成27年6月30日(火)	事業計画の推進について
平成27年9月14日(月)	SS衣類の洗濯方法について

【サービス担当者会議】

年月日	実施回数
随時開催	延54回/年

【カンファレンス・モニタリング】

年月日	実施回数
随時開催(3階)	延113回/年
随時開催(4階)	延75回/年

No. 7 音楽療法 活動実績 指導音楽療法士 竹田 典子 先生

実施日	参加人数	実施場所	実施日	参加人数	実施場所
平成27年4月7日(火)	13名	地域交流スペース	平成27年10月6日(火)	16名	地域交流スペース
平成27年4月21日(火)	17名	地域交流スペース	平成27年10月20日(火)	17名	地域交流スペース
平成27年5月12日(火)	20名	地域交流スペース	平成27年11月10日(火)	10名	3階 デイコーナー
平成27年5月26日(火)	16名	地域交流スペース	平成27年11月24日(火)	19名	地域交流スペース
平成27年6月2日(火)	16名	地域交流スペース	平成27年12月8日(火)	15名	地域交流スペース
平成27年6月16日(火)	14名	地域交流スペース	平成27年12月22日(火)	13名	3階 デイコーナー
平成27年7月7日(火)	15名	地域交流スペース	平成28年1月5日(火)	12名	地域交流スペース
平成27年7月21日(火)	16名	地域交流スペース	平成28年1月19日(火)	17名	地域交流スペース
平成27年8月4日(火)	24名	地域交流スペース	平成28年2月2日(火)	17名	地域交流スペース
平成27年8月18日(火)	18名	地域交流スペース	平成28年2月16日(火)	16名	地域交流スペース
平成27年9月1日(火)	15名	地域交流スペース	平成28年3月1日(火)	11名	地域交流スペース
平成27年9月15日(火)	20名	地域交流スペース	平成28年3月15日(火)	15名	地域交流スペース

No. 8 定期ボランティア 活動実績

活動者	活動内容	活動日	活動場所	活動回数
竹田 典子 様	ピアノ演奏	毎月第1.3週火曜日 14:00~15:00	各フロア	20回
竹田 有里 様	音楽療法の補助	毎月第2.4週火曜日 10:30~11:30	地域交流	20回
長渡 節子 様	音楽療法の補助	〃	〃	8回
中山 邦子 様	音楽療法の補助	〃	〃	13回
ボランティアグループ「あじさい」	喫茶手伝い	毎月第1.3週水曜日 13:30~15:30	〃	16回

平成27年度 生活課 内部研修実施報告書（資料Ⅱ）

全体研修

日 時	研 修 名	研 修 内 容、目 的	担 当 者	参加人数	参加者
平成27年5月27日(水)14:30～16:00	緊急対応、火災時の対応①	事故発生時の初期対応、報連相ルート等 火災発生時の初期対応	一瀬 明美 高見 大地	13名	榎本、赤田、竹中、中野、道北、今峯、仲川、櫻井、弘田、高見 池田み、芝本、一瀬
平成27年6月10日(水)14:30～15:45	法人理念、ケア方針①	法人理念、ケア方針の理解	三谷 彰	16名	田中、竹中、中井、道北、今峯、仲川、櫻井、藤原、川添、岡 堂路、芝本、村田、湊、三谷、松山(アネックス)
平成27年6月17日(水)14:30～15:45	法人理念、ケア方針②	〃	〃	10名	太田、高橋、多賀、中野、飛鷹、中西、松岡、弘田、池田み、三谷
平成27年7月8日(水)14:30～15:45	法人理念、ケア方針③	〃	〃	9名	三島、榎本、赤田、成本、高見、池田、一瀬、芝本、三谷
平成27年7月29日(水)14:15～16:00	三大ケアの考え方①	三大ケアの考え方、私たちの大切にしたい 事柄について共有認識を深める	太田 創 飛鷹 香織 芝本 陽子	12名	高橋、榎本、田中、竹中、高見、櫻井、川添、一瀬、太田、飛鷹 芝本、三谷
平成27年8月12日(水)14:15～16:00	三大ケアの考え方②	〃	〃	14名	池田、中西、藤原、中野、中井、道北、成本、村田、池田み、堂路 太田、飛鷹、芝本、三谷
平成27年8月19日(水)14:15～16:00	三大ケアの考え方③	〃	〃	11名	三島、多賀、赤田、松岡、今峯、仲川、甲斐、太田、芝本、三谷 宮崎(総務)
平成27年9月9日(水)14:30～15:45	認知症ケア①	認知症ケアの基礎知識の習得 実践のケア活かすヒントを得る	三谷 彰	14名	赤田、榎本、竹中、中井、道北、藤原、櫻井、川添、池田み、堂路 村田、湊、芝本、三谷
平成27年9月16日(水)14:30～15:45	認知症ケア②	〃	〃	12名	飛鷹、今峯、仲川、池田、松岡、中西、多賀、中野、高橋、三島 一瀬、三谷
平成27年10月14日(水)14:30～15:50	感染症予防①	感染対策の重要性を理解し、排泄物や 吐しゃ物処理を適切な方法を学ぶ	三島 恭子 櫻井 由里子 池田 みはる	12名	多賀、赤田、道北、藤原、松岡、川添、山根、村田、芝本、櫻井 三島、池田み
平成27年10月21日(水)14:30～15:45	感染症予防②	〃	〃	11名	高橋、中井、成本、高見、今峯、仲川、湊、芝本、三島、櫻井 池田み
平成27年11月25日(水)14:30～16:00	緊急対応、火災時の対応②	事故発生時の初期対応、報連相ルート等 火災発生時の初期対応	一瀬 明美 高見 大地	11名	太田、田中、成本、池田、中西、堂路、村田、芝本、一瀬、高見 三谷
平成27年12月3日(水)14:30～15:45	座る①	ケアにおける座位の重要性を理解して 適切なシーティング方法を学ぶ	多賀 祐也 池田 倫子	12名	道北、榎本、中井、松岡、甲斐、川添、村田、湊、堂路、池田み 多賀、三谷
平成28年1月13日(水)14:30～15:45	座る②	〃	〃	9名	中野、田中、赤田、藤原、今峯、一瀬、芝本、多賀、池田
平成28年1月17日(水)14:30～16:00	事故防止①	リスクマネジメントを理解して再発防止の 取組みについて学ぶ	芝本 陽子 高橋 みどり	9名	飛鷹、中西、今峯、道北、中野、川添、中井、芝本、高橋

全体研修(つづき)

日 時	研 修 名	研 修 内 容、目的	担 当 者	参加人数	参加者
平成28年2月25日(木)14:30~16:00	身体拘束①	身体拘束、虐待、不適切ケアを理解してグループワークを通じて気付きを深める	太田 創 飛鷹 香織 芝本 陽子	11名	松岡、今峯、高橋、根津、赤田、多賀、池田み、芝本、太田、飛鷹 三谷
平成28年3月9日(水)14:30~16:00	身体拘束②	〃	〃	11名	櫻井、藤原、高見、池田、道北、田中、成木、湊、芝本、太田 三谷
平成28年3月25日(金)14:30~16:00	褥瘡予防①	褥瘡予防対策を学ぶ	多賀 祐也 中西 彬人	11名	高見、多賀、中野、道北、田中、中西、一瀬、池田み、芝本、三谷 宮崎(総務)

外部研修伝達講習

日 時	研 修 名	研 修 内 容	担 当 者	参加人数	参加者
平成27年9月30日(水)14:30~15:20	外部研修伝達講習会①	外部研修の伝達講習	高見 大地	9名	赤田、中野、中井、櫻井、今峯、仲川、高見、芝本、三谷
平成27年10月30日(金)14:30~16:00	外部研修伝達講習会②	〃	太田 創 芝本 陽子	12名	榎本、中野、中井、飛鷹、藤原、今峯、川添、太田、芝本、村田 湊、三谷
平成27年11月12日(木)14:30~16:00	外部研修伝達講習会③	〃	高見 大地 三島 恭子 三谷 彰	14名	多賀、中野、道北、中井、飛鷹、櫻井、池田、今峯、高見、三島 堂路、湊、芝本、三谷
平成27年12月16日(木)14:30~16:00	外部研修伝達講習会④	〃	太田 創 飛鷹 香織 芝本 陽子	10名	三島、赤田、道北、池田、藤原、太田、飛鷹、村田、芝本、三谷
平成28年2月19日(金)14:30~15:45	外部研修伝達講習会⑤	〃 ※福辺初子先生の介護技術研修	高見 大地 三島 恭子	12名	中野、中井、吉田、中西、川添、甲斐、三島、高見、村田、湊 芝本、三谷

その他(小グループの勉強会)

日 時	研 修 名	研 修 内 容	担 当 者	参加人数	参加者
平成27年5月11日(月)16:15~16:45	小グループ研修①	起居動作の介助、移乗介助	中西 彬人 藤原 大樹	7名	藤原、櫻井、仲川、今峯、飛鷹、竹中、佃
平成27年5月19日(火)16:15~16:45	小グループ研修②	〃	中西 彬人 藤原 大樹	6名	高見、松岡、仲川、今峯、竹中、飛鷹
平成27年5月22日(金)16:15~16:45	小グループ研修③	〃	中西 彬人 藤原 大樹	6名	中西、飛鷹、櫻井、仲川、今峯、中野
平成27年5月23日(土)16:15~16:45	小グループ研修④	〃	中西 彬人 藤原 大樹	6名	中西、飛鷹、松岡、仲川、今峯、竹中
平成27年5月27日(水)16:15~16:45	小グループ研修⑤	〃	中西 彬人 藤原 大樹	6名	藤原、高見、仲川、今峯、中野、竹中

その他(小グループの勉強会) 続き

日 時	研 修 名	研 修 内 容	担 当 者	参加人数	参加者
平成27年5月28日(木)16:15~16:45	小グループ研修⑥	〃	中西 彬人 藤原 大樹	4名	藤原、松岡、仲川、今峯
平成27年5月29日(金)16:15~16:45	小グループ研修⑦	〃	中西 彬人 藤原 大樹	4名	中西、藤原、櫻井、仲川
平成27年6月23日(火)16:15~17:15	小グループ研修⑧	褥瘡ケア勉強会	中西 彬人	3名	中西、仲川、櫻井
平成27年6月24日(水)16:15~17:15	小グループ研修⑨	〃	多賀 祐也	4名	多賀、今峯、中野、仲川
平成27年7月14日(火)16:15~17:15	小グループ研修⑩	ポジショニング	中西 彬人	5名	中西、赤田、中井、佃、村田
平成27年7月31日(金)16:15~17:16	小グループ研修⑪	シーティング	多賀 祐也	4名	多賀、池田、飛鷹、中西彬
平成27年12月5日(土)16:15~17:00	小グループ研修⑫	糖尿病について	一瀬 明美	4名	一瀬、三島、榎本、松岡
平成27年12月15日(火)16:15~17:00	小グループ研修⑬	〃	一瀬 明美	7名	一瀬、太田、道北、高橋、飛鷹、松岡、芝本
平成28年1月22日(金)16:15~17:00	小グループ研修⑭	〃	一瀬 明美	5名	一瀬、太田、中井、角田、三谷

平成 27 年度 事業 報告 書

報告日	平成28年4月30日
部門名	アネックス
責任者	松山 由香

収入稼働率	項目	累計	
		稼働率	収入
	目標	98.0%	280,000千円
	実績	92.1%	274,786千円
	差異	-5.9%	-5,214千円
	達成率	94.0%	98.1%

視 点	重点取組課題	目標値	総 括
財務状況の改善	稼働率の向上	稼働率98%	<p>年間稼働率 92.1%</p> <p>年間退居者 21名 (死亡による退居者17名 長期入院による退居者4名)</p> <p>年間入居者 20名</p> <p>延べ入院者数 59名</p> <p>空床延べ日数 1865日</p> <p>(退居に伴う空床日数 211日 入院に伴う空床日数 1612日 外泊に伴う空床日数 42日)</p> <p>・稼働率については目標値に達した月がなく、年間を通して目標値に大幅に未達となった。稼働率が低くなった要因としては入院者が多かったことが挙げられる。延べ入院者数59名のうち、2回以上入院退院を繰り返した方が11名、1ヶ月以上の長期入院となったケースが24件あった。</p> <p>・今年度は入退居が多く、退居者が上半期5名・下半期16名となり、下半期に集中した。退居から新入居を迎えるまで1週間以内でご案内できたケースは5件で、特に退居が続いた時に新規受け入れまでに時間を要した。</p>
	経費削減	電気・ガス・水道使用量の削減 平成26年度比較	<p>年間電気使用量 211,966kw (平成26年度213,555kw)</p> <p>ガス使用量 29,072m3 (平成26年度29,812m3)</p> <p>上下水道使用量 5,841m3 (平成26年度5,704m3)</p> <p>・電気使用量、ガス使用量については数字だけみると少し減り、上下水道は少し増加した。空調についてはこまめにオンオフを切り替える、法人の規定設定温度に設定し運転するように頻繁に注意喚起し、相談室で1日2回は館内の空調の運転状況をチェックするように努めた。</p> <p>・上下水道使用量については、入浴や食器洗いでは節水に努めた。排泄による汚染衣類の洗濯回数を減らすことが今後の課題として残った。</p>
		コスト削減	<p>・消耗品については、ユニット毎の使用量が分かるように在庫管理の方法を見直したが、それぞれのユニットの消耗品の使用量が適切であるかについては分析がしっかり出来ずにコスト削減には至らなかった。</p> <p>・電化製品については特に洗濯機・洗濯乾燥機の故障が続き修理を繰り返したり、新しく購入して頂いた。</p>
	排泄ケアの充実 = オムツ代の削減 平成26年度比較	<p>オムツ代2,480,611円 (平成26年度3,612,376円)</p> <p>・オムツ代については平成26年度より1,131,765円の削減となった。使用オムツについて6月からテーナの使用を止め、リドゥのみを使用したことが大幅なコスト削減に繋がった。</p> <p>・排泄ケアの充実を目指し内部研修会を5月に実施し、24名の職員が参加した。私たちが目指す排泄ケアについて確認し、下剤に頼らないケア、パットの種類等基本的なところを勉強した。排泄ケアの質の向上については課題が残った。次年度の継続取り組み課題とする。</p>	
サービスの強化	チームアプローチの実践	介護の充実	<p>・3大介護についてはケアの3原則に基き「アネックス心得」を作成し、5月・6月に「アネックス心得」を全職員に周知した。7月以降は月に1回各ユニットで「アネックス心得にそったケアが出来ているか？」振り返りを行った。ケアの質の向上にはまだまだ課題があるが基本に戻り、ケアの見直しが出来たことは次年度に繋がっていく動きとなった。</p>

視 点	重点取組課題	目標値	総 括
サービス力の強化	チームアプローチの実践	チームアプローチを促進する会議運営を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー会議ではホワイトボードミーティングを継続した。会議の進め方を学ぶ内部研修会は実施出来なかった。 ・ユニット会議については、ユニットによって開催頻度に差があった。進め方も大切だが、まずはチームで現状を把握し、問題解決に向けて話し合う姿勢から指導が必要であった。 ・「会議心得」については、認知 実践にはまだまだ取り組みが必要であった。
サービス力の強化	心を伝える接遇	社会人として正しい言葉遣いが出るようになる	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の接遇マニュアル、DVDを用いて7月に内部研修会を実施した。各ユニットでの勉強会は実施できていない。接遇についてはまだまだ意識を高め、実践していかなくてはならないと感じている。 ・報連相の場面ではいきなり報連相をするのではなく「今お時間よろしいでしょうか？」等相手に伺ってから、報連相できる職員が増えた。
		挨拶で明るい生活の場 = 職場環境を創り出す	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶を意識して取り組む職員は昨年度より増えたが挨拶を苦手とする職員はまだいる現状である。生活の場=職場の明るくて、優しい雰囲気作りは次年度も継続して取り組んでいく。
		清潔で快適な生活環境 = 職場にする	<ul style="list-style-type: none"> ・美化運動については年間2回しか実施できていない。 ・各ユニットにおいてはそれぞれのユニットで「4S」を意識して取り組み、特に1階ユニットでは以前より綺麗になった。
サービス力の強化	ケアの3原則の実践	ご利用者の自主性・主体性を引き出す	<ul style="list-style-type: none"> ・事あるごとに「主体は誰か？」ということを確認し意識して取り組めた部分はあるが、自分の思いを言葉にして伝えることができないご利用者の声にならない声を感じるという点では全体的に力不足を感じている。介護の基本である「気づく」「考える」「行う」ことを実践し、今後もサービス力の向上に努めていく。 ・サービスプランの内容をケアの3原則に基いた内容になるように書式を見直す予定であったが出来なかった。
	看取りケアの充実	看取りケアに必要な知識と技術の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・施設で看取りをさせて頂いた方が6名おり、都度看取りの振り返りは実施できた。生死を考える、死を受け入れる機会は持てたが看取りについてはとても深い内容であるため今後も色々なことに向き合いながら関わっていく。 ・ご利用者が元気な時から「最期を考える」ということはなかなか十分な支援が出来なかった。 ・エンゼルケアについては、内部研修会を実施し参加者で知識を深めることができた。
業務の改善	労働環境の改善	休憩場所の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩場所については、アネックス館内に場所の確保ができず新たに休憩場所を作ることが出来なかった。
人材組織力の強化	職員の資質向上と職員教育	効果的な内部研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修については、ほぼ年間内部研修計画に基き実施できた。計画以外でも必要と思われる研修は適宜実施した。研修については出来るだけ受ける職員が理解しやすいようにシミュレーション形式にしたり、視覚的に分かりやすくするため大事なポイントを模造紙に書いてポスター形式にしたり工夫した。移乗技術研修についても月に1回継続して実施し、技術の向上が評価された職員もいた。 ・研修の参加率については、当日の出勤状況やユニットの様子により参加人数に差が出た。
		職員教育	<ul style="list-style-type: none"> ・新卒職員、中途採用職員に対してはプリセプターシップ制度を活用し指導した。 ・常勤、非常勤問わず入職してから3ヶ月目には副主任・相談室にて面談を実施したが、3ヶ月以降は気になる方のみ実施した。
		職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・田中、向井については地域の介護技術研修に講師として参加させてもらった。2人とも講師としてしっかり役割を果たす人材に成長したと評価している。

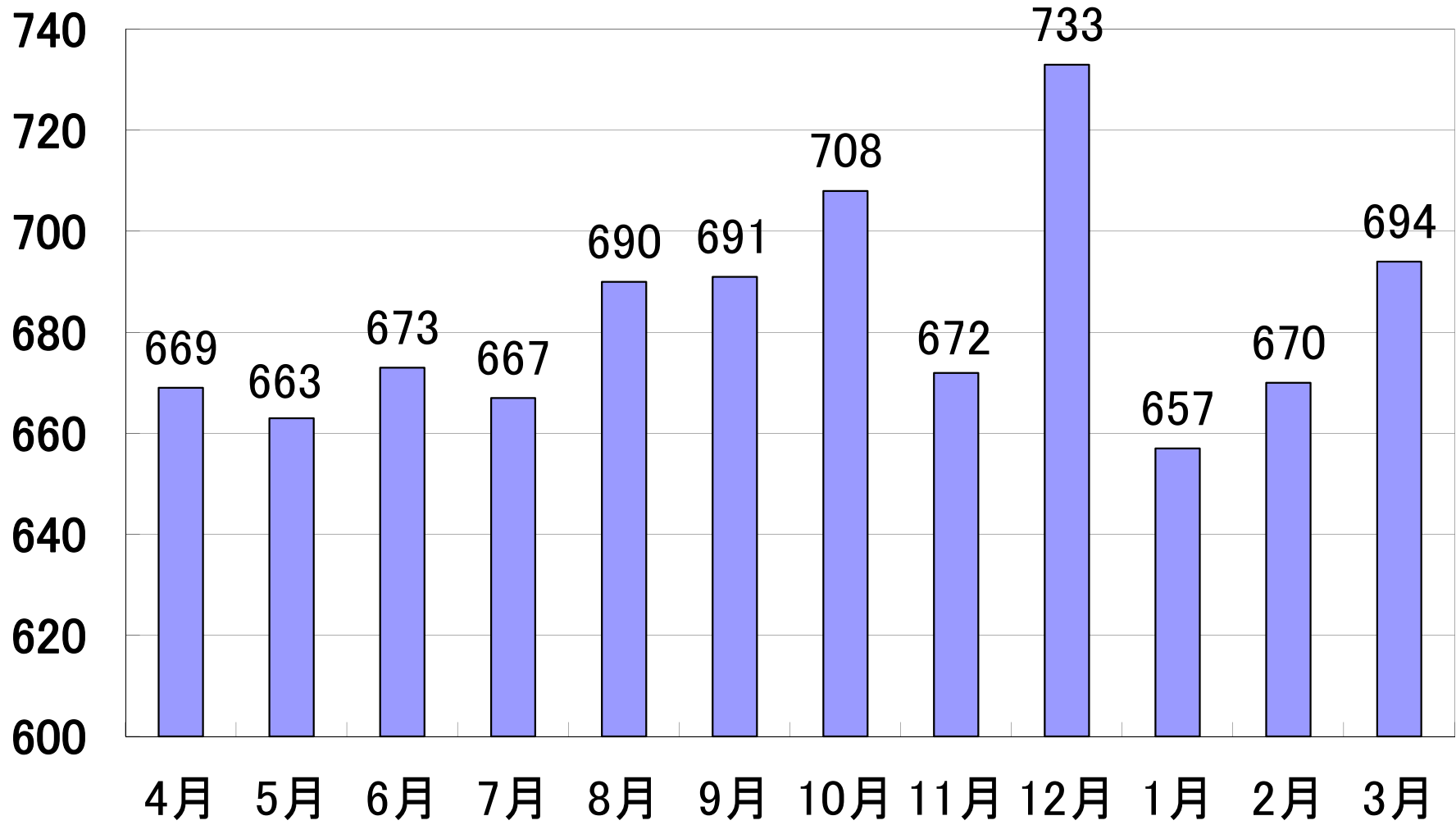
平成27年度事業報告書

報告日	平成28年4月28日
部門名	通所介護課(うらら)
責任者	松本 佳子

項目	累計	
	稼働率	収入
収入稼働率		
目標	75.0%	78,000千円
実績	66.3%	74,908千円
差異	-8.7%	-3,092千円
達成率	88.4%	96.0%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	稼働率の向上	650万(月平均)	毎月の居宅周りにて、デイでの活動報告や利用休止者への情報交換等に努め営業活動に努めました。担当者会議や利用支援者に関する会議にも随時積極的に参加しケアマネとの連携に努めましたが、目標達成には至りませんでした。行事毎のブログの更新や日々の活動の様子等をブログに掲載しました。
サービス力の強化	認知症ケアの充実		認知症の方や診断は受けておられませんが、それに近い症状のある方等が増えて来ている。安心してご利用頂ける様にニーズの把握及びケースカンファレンス等で利用者に合わせて個別の支援を行って来ました。
	ターミナルケアの実践		可能な限り、在宅での生活が出来る様にケアマネ、家族との連携を図り利用頂ける様に個別の検討会を開き問題点や改善点等の改善や把握に努め、安心して最後までご利用頂ける様に支援させて頂いた。
	レクの充実	毎月	毎月のレク会議を実施し次月度のレク内容について検討会を行いました。職員全員がレクプログラムを把握しスムーズに行えるようにレクファイルを作成し、内容を誰もが理解でき行える様にしました。桜や藤棚、紫陽花ドライブツアーを実施しました。また、脳を刺激するプログラムとして脳トレ、塗り絵、切り絵等の個別のプログラムを用意し随時行いました。外出企画として明石西公園にお弁当を持参しピクニックを実施しました。園児との交流では、明光保育園との交流は雨天の為、中止となりましたが持子保育園との交流は天候にも恵まれ、開催することが出来ました。
	ケースカンファレンスを開催し、個別ケースの情報共有に努める	毎月	毎月ケースカンファレンスを開催し、個別計画書の把握、共有とモニタリングを実施しました。介護事故等の話し合い等についても再発防止について話し合いやモニタリングを行いました。
	介護事故やヒヤリ・ハットの分析	毎月	毎月の会議でヒヤリ・ハットの集計や分析を行い、結果に伴う事例検討も実施しました。
	通所介護計画書の管理・運用	毎月	計画書作成担当者及び管理表の整理、更新を毎月行っており事務所に掲示し作成を促しました。カンファレンスを通して作成担当者の計画書作成状況の把握にも努めました。また、適宜計画書作成に当たり、遅れが見られない様に随時促しを徹底して行いました。
	芸術祭の開催	11月に開催	4月から作品作りに取り組みました。利用者個別の作品や数名で取り組む共同作品等、余暇時間やレクの時間を通して作品作りを行って頂きました。計画通り11月に1週間実施することが出来ました。他部署にも声掛けを行い、多数の作品を展示させて頂きました。展示等の準備から撤収までご協力頂き部署間での交流が出来ました。利用者家族やケアマネ、施設を訪れる方や地域の方等外部の方にも多数見学を頂き施設としての芸術祭のアピールが出来ました。
業務の改善	心のくつろぎタイムを作る	毎日	利用者との交流の時間を作るように個々に業務の改善を図り、空いている時間があれば積極的に多くの利用者や交流を図れるように努めました。
	環境整備		個々に掃除、片付けを意識して行く事で環境整備に努めました。和室での休息を取って頂く為、ベッドを配置し活用できるように整理整頓・掃除を行いベッド数の確保に努めました。棚の活用にも取り組み、出したら片づけるを職員全員に意識付け整理整頓に努めました。
人材・組織力の強化	課内業務の統一		送迎及び人事協力は可能な限り調整し行いました。合同での内部研修を通して利用者対応等の情報交換が行えるように努めました。書式の変更等情報交換をしながら改善に努めました。
	人材育成	毎月開催	スタッフの指導内容を会議にて拾い出し報告することで、どの様な指導が出来たのか今後どの様な指導が必要なのかを確認しあえました。指導内容についても確認していく事で指導した側された側、両方のレベルアップに繋げることが出来ました。
	専門性に取り組む		年間内部研修を通して合同での研修に取り組み、お互いの学びと交流の場を設けました。
	スタッフ連携	毎月開催	在宅会議を通して在宅部門での連携も図れている。ポイントカードがスタートし統括センターとしての取り組み等が少しずつではあるが出来てきている中で、職員の統括センターとしての活動の意識も高まって来ている。

平成27年度 うらら 月別延べ利用者数



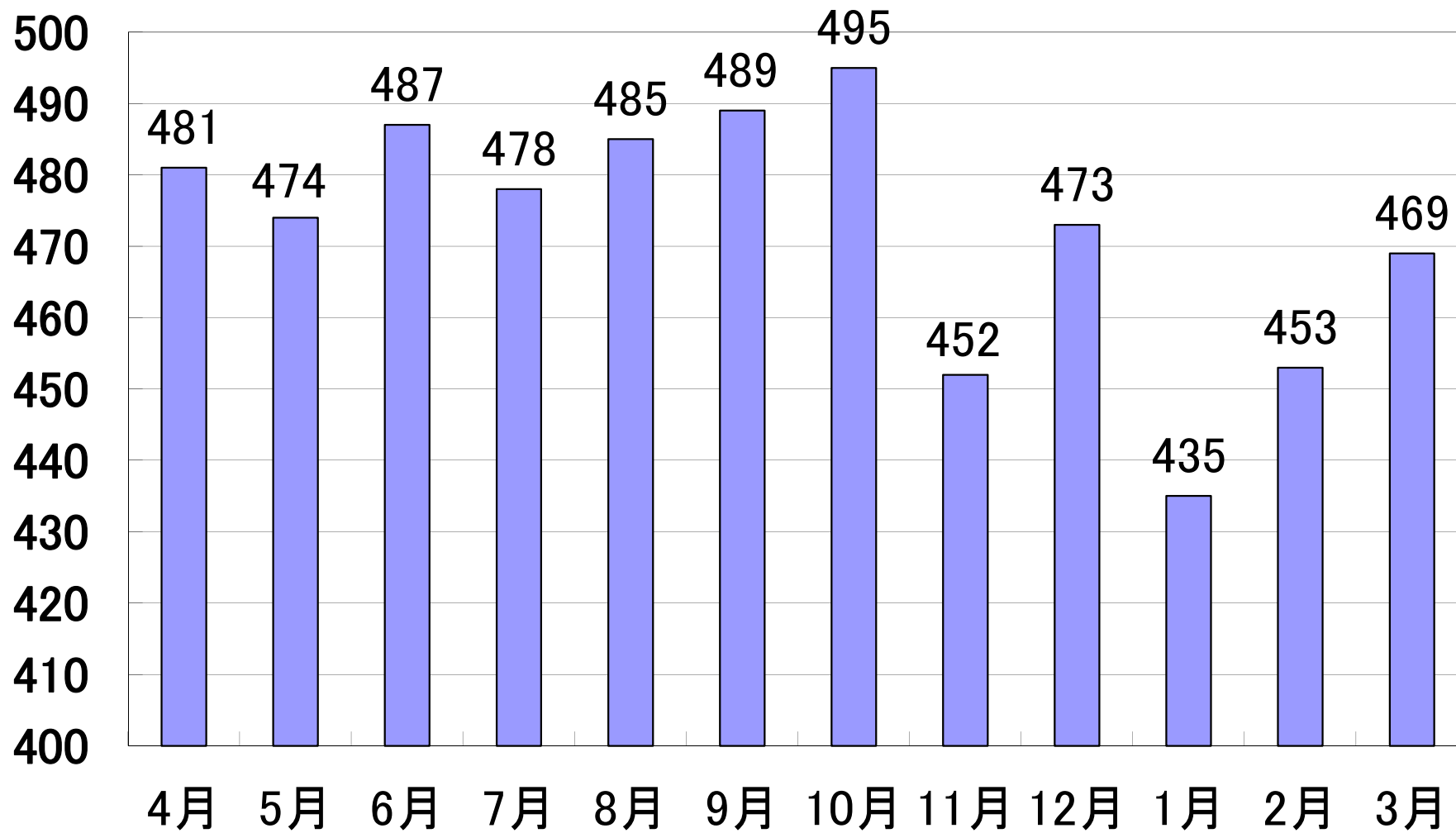
平成27年度事業報告書

報告日	平成28年4月27日
部門名	通所介護課(きらら)
責任者	西本 大輔

収入稼働率	項目	累計	
		稼働率	収入
	目標	70.0%	60,000千円
	実績	52.3%	48,683千円
	差異	-17.7%	-11,317千円
	達成率	74.7%	81.1%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	月間稼働率の安定化を図る	500万(月平均)	毎月の居宅周りや利用休止者に対してお手紙を書いたり、入院中の利用者のお見舞いに行ったり信頼関係が強くなるように取り組みをおこないましたが、目標達成には至りませんでした。担当者会議等、利用者支援に関する会議は随時参加しケアマネとの連携も図っています。パンフレットを新しく作成しました。各居宅へ定期的に配布するため、一覧を作成し活用しています。体験利用の受け入れについて、新規利用へ結びつくように相談員のアセスメントや当日の対応について見直しを行いました。
サービスの強化	認知症ケアの充実		認知症の診断がある方、診断はないが症状がある方の割合が増加しています。個別でのケース検討の中で、少しでも安心して快く過ごせるように個別の利用者に合わせた支援を行っています。
	リハビリの強化		セラバン体操、日常生活動作の体操、個別の訓練など利用者からのニーズに合わせた取り組みを実施しました。体力測定の実施も行い利用者の意欲を向上させる取り組みも実施しました。体力測定の結果を一緒に振り返ることで利用者との現状についても確認も出来ました。特に要支援の利用者について、自宅でも出来る体操の紹介も行い、数名の方で継続して来ています。
	選べるレクプログラムの実施		毎月の会議で利用者が選択しやすい方法の検討や提供したレクの評価を行い、利用者がより楽しめるレク活動の提供に取り組みました。また、集団で楽しめるプログラムだけでなく、個別のプログラムも検討して実施していきましました。個別の創作レクでは、利用者から完成した達成感や満足感を得られたという意見も頂けました。
	家族会の開催、アンケートの実施		満足度の調査としてアンケートを実施しました。8割の利用者から満足している、やや満足しているの回答をいただく結果が得られました。連絡帳や職員の接遇に関してなど貴重なご意見を頂きました。職員全員で検討した改善策も含め、回答を利用者様、家族様へ報告し来年度への取り組みとして継続していきます。
	ケースカンファレンスを開催し、個人ケースの情報共有に務める	毎月開催	カンファレンスは毎月開催出来ました。新規利用者や状態に変化があった利用者について情報を集め、話し合いを行いました。個別のケースの情報共有について、カンファレンス以外に毎日の申し送りで利用者の状態について記録し、業務前にチェックしてから参加することで、日々の利用者の変化に全職員で共有できるように取り組んでいる。
	介護事故やヒヤリハットの分析	毎月評価する。	会月の会議でひやりはっとの分析を行っています。同じひやりはっとが続かないように一つ一つのケースに対しての解決策も話し合い実施しています。職員が気づきの意識を持てるようにするための働きかけも行っていきます。
	通所介護計画書の管理・運用		担当者が管理し、毎月管理表を掲示して通所介護計画書の作成を促しました。ケースカンファレンスの際にモニタリングを行い、必要な場合には適宜変更しています。居宅サービス計画が届かない場合のケースも多々あるため、相談員を中心に各担当ケアマネに連絡し対応しています。
業務の改善	環境の整備		レクリエーションの道具を月ごとに入れ替えを行うなどホール内に物が散乱しないように取り組めた。脱衣場の床、壁紙に関して、気づいていたが対応が出来ていなかったことが反省点である。その後、備品など気づいた時にすぐに対応するように職員で意識出来ている。建物の外の環境整備についても、送迎の前後にゴミ拾いをしながら美化に努めている。塗り絵や脳トレ、手芸道具など使った後に元に戻すことが不十分なため、引き続き意識づけを行っていく。
人材・組織力の強化	専門性に取り組む		福辺先生の介護技術研修を受け、現場に伝達し職員全員で研鑽している。介護に対する意識にも少しずつ変化がみられている。今後も個別のケースに関して介護技術のトレーニングを継続していく。機能訓練に関しては、体力測定を実施するなど、利用者のニーズに答えられるように取り組み始めている。来年度成瀬先生を迎え更に専門性を高めていく。
	スタッフ連携		在宅会議を通して、在宅部門の連携も図れている。デイサービスの職員に統括センターでの取り組みや統括センターの一員としての意識がまだ薄いと感じているので、来年度にも引き続き取り組んでいく。

平成27年度 きらら 月別延べ利用者数



平成27年度事業報告書

報告日	平成28年4月3日
部門名	ヘルパーステーション
責任者	峰 広貴

	項目	累 計	
		稼働率	収 入
収 入 稼働率	目標	/	19,164千円
	実績	/	13,654千円
	差異	/	-5,510千円
	達成率	/	71.2%

視 点	重点取組課題	目標値	総 括
財務状況の改善	新規獲得	登録者数60名	平成27年4月～28年3月の新規獲得者数は34名。サービス中止者数は19名。平成28年3月31日の時点での登録者数は、46名となった。毎月平均で2、3人の新規利用者の獲得ができており、今後もこの状態を継続することで、登録者数の増加が見込める。 しかし、働き手は4月、5月に他部署から移動してきた2名が増えたのみで、その後は新たな雇用が出来ていない。そのため、サービスの集中する時間帯や帯での利用者を受けられない場面も出てきている。また、プライム江井ヶ島居宅介護支援事業所との連携を図ることとしていたが、二見、魚住、播磨町まで派遣できるだけのヘルパーがおらず、相談はあるもののサービス提供につなげられていない。
		土日の営業	土日の営業は、7月から本格的にスタートし、現在も継続的に営業できている。 しかし、新たな職員の雇用が進んでいない為、交代で出勤する正規職員1人で対応できる人数しか受けられていない。
サービス力の強化 業務の改善	登録ヘルパーとのさらなる密な連携	登録ヘルパーが気軽に寄ってもらえる事業所を作る	11月から月に一度の研修をスタートさせ、登録ヘルパーが来てくれる回数は増えている。しかし、サービスの合間などに気軽に立ち寄りもらえる状況にはなっていない。 それでも、事務所職員と登録ヘルパーが気軽に話ができる関係にはなってきている。
		サービス提供責任者が随時サービス中の様子の確認を行う	年間通じて、集金や必要書類の写しを頂くときなどに訪問することが出来ている。また、サービス提供責任者の和田を中心にヘルパーからいつもと異なる状況の報告があれば、すぐに訪問することは継続できている。
人材・組織力の強化	職員全員のスキルアップ		11月からは、毎月課内研修を実施しており、登録ヘルパーも定期的な研修の機会が確保できるようになった。27年度は、福辺流介護術の伝達を主な内容として実施し、登録ヘルパーたちも介護技術に興味を持つようになってきている。今後、介護保険の対象者が、要介護度の高い利用者に限定されてくることも見据え、身体介護に強い事業所にしていく必要があり、介護技術を中心とする研修は今後も継続的に実施する。
	法人マニュアルの徹底		一般職対象の榎本先生の研修(7月、9月)に登録ヘルパー含む全員が出席することができた。 課内での、法人マニュアルの研修も予定していたが、実施できなかった。 平成28年度には、整備された法人マニュアルを伝える機会をしっかりと作っていく。

平成27年度事業報告書

報告日	平成28年4月6日
部門名	地域支援課
責任者	長尾史恵

	項目	累計	
		稼働率	収入
収入稼働率	目標		26,760千円
	実績		25,242千円
	差異		-1,518千円
	達成率		94.3%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・特定事業所加算Ⅱを継続して取得する ・収入月額223万円を達成する 	給付管理(介護)195万 (予防)10万 認定調査18万(目安)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度についても、特定事業所加算Ⅱの取得は継続 ・その他加算についても積極的な取得を行う ・収入月額については、(概算)月額平均は、220万円となり、年間を通じて平均での月額223万円については未達成。年間を通じて、給付管理数が低迷していた。認定調査については、積極的に受託し目標値を大幅に超過している。今年度の実績は479件。 ・新規ケースの受託については、平成27年度の実績は40件であった。新規ケースの依頼に対しては、積極的に応じているが、その一方で、死亡、施設入所、長期入院の増加もあり、給付管理数の増加につながらなかった面もみられる。 ・事業所全体でのケアマネジメントの質の向上については、定期的な課内でのケース検討を実施。このケース検討より個別にフォローの必要な職員に対しては継続して面談を行っている ・課内研修については、年間を通じてのテーマを「相談援助技術」と設定し、上半期に自己学習を行う。下半期に各自1回ずつ、課内でプレゼンを行う形で実施。内容は「自己覚知」「価値のワーク」「バイスティックの7原則について」「『自分を知る』ということ」「傾聴」「職業倫理と価値観」となっている。 ・地域包括支援センターの実施する研修会その他についても参加し、伝達研修を行い、研修機会を確保している。
業務の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれがコスト意識を常にもって業務にあたる ・個人情報の取り扱いに注意する ・情報伝達手段の見直し ・部署内で忌憚ない意見が交換できる 		<ul style="list-style-type: none"> ・コスト意識については、空調、電話の使用、ファイルの再利用、両面印刷といった個人でも取り組める内容については言うまでもなく、部署として取り組めるものは互いに声を掛けながら行っている。 ・個人情報の取り扱いについては訪問以外の持ち出しを禁止している。在宅介護支援センターの台帳については1台のPCのみで管理。 ・情報伝達手段については、電話が中心にはなっているが、その他、FAX・メールの使用も行う。個人のメールアドレス取得ができたことで、メールの活用も増えている。 ・課内カンファレンス、課内会議、ケース検討にて、積極的な意見交換を進め、在宅サービス会議に向けての意見集約も定期的に行っている。
地域資源になりうる事業所・人材となる	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅介護支援センターとして、地域でのより所となれるための連携を進める ・地域づくりの視点を持ち、支援センターならではのアウトリーチ機能も活かして地域へのアプローチを進める 	年6回(教室開催について)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術教室については、アネックス職員の協力を得て年間1回実施する。(年度をまたぎ、4月にも実施予定) ・その他、地域向けの予防教室として「認知症になるって？」を開催。 ・きららデイサービスセンターを利用したのサテライト相談については、支援センター事務所待機する形で毎週1回実施。実績としては件数は月に1件ある程度であった。 ・認知症サポーター養成講座については、高年介護室からの依頼での実施(対象は、中学生、シルバー人材センター、就労支援事業所、一般市民等)、林コメンにて実施。その他、当法人でも実施。 ・その他、衣川コメンより高齢者大学の講師依頼を受け、9/30実施。王子幼稚園より親子ふくし体験の講師依頼あり9/30実施。 ・地区在宅サービスゾーン協議会の活性化についても取り組む。 ・在宅介護支援センター業務として、相談延べ件数2000件(内訪問相談延べ件数539件)であった。
社会福祉法人としての地域への社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の相談窓口としての機能を活かし法人全体が地域貢献のできるよう、内外へ情報発信を行う 		<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度実施事業の運営(介護技術講習会、認知症サポーター養成講座、サテライト相談)を通じて地域へのアプローチを行う。在宅介護支援センターの業務を通じて、また、ケアマネジャーのケース支援を通じて地域からのニーズの収集、発信を目指す。 ・きぬがわ版認知症カフェの開催に向けて、特に在宅サービス会議の場での検討を重ねる。

平成27年度事業報告書

報告日	平成28年4月21日
部門名	グループホーム プリランテ明石
責任者	米井 秀彰

収入 稼働率	項目	累計	
		稼働率	収入
	目標	98.5%	82,448千円
	実績	97.4%	84,589千円
	差異	-1.1%	2,141千円
	達成率	98.9%	102.6%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	安定した収入を確保する	稼働率98.5% 加算の算定	入院件数が7件、空床86床。入退去の入れ替わりが3回、空床77床となった。入院者は1カ月以内の入院で済んでいるが入退去の入れ替わりに時間がかかってしまった。今年度は事前面接を行い入れ替わりをスムーズにしようとしたが退院手続きや小規模多機能との連携が上手くいかずに入居が遅れるケースもあった。サービス提供体制強化加算(Ⅰ)は年間通して算定できた。
	共用デイ、短期利用共同生活介護実施への取り組み		責任者が認知症介護実践リーダー研修を修了し28年1月より短期利用共同生活介護の指定を受けることができた。指定を受けてから入院者や退居者が出ていない為実施しておらず。
	コスト削減		入居者様のADLの低下からリネンの洗濯量や衣服の洗濯量が増えたことからコストが上がっている。電気や水道に関してはコスト削減を意識しているパートナーが増えている。会計担当者とも収支の情報を共有することで見えていないお金の動きが見えるようになりケアの見直しや業務改善にも繋がったケースもある。
サービス力の強化	今までに行っていない形の地域とのつながり作りや貢献にも取り組む		王子幼稚園とのつながりが増えてきているがその他の地域とのつながりに関しては新しく持つ事ができていない。運営推進会議でも情報を得ているが断られるケースも多い。認知症サポーター養成講座を地域住民や中学生に行う事ができた。地域との防災協力については課題が残る。
	ケアプランの簡素化		ケアプランの簡素化を完了することができたが、全員がケアプランを意識しているかと言えばそこまで至っていない。毎月の会議でケアプランのモニタリングを行う事ができるように来年度は業務改善を行う。
	認知症ケアについて深めていく		笑顔で幸せを感じることができるグループホームを目指す。といった目標に対して日々の業務の中で関わる時間をどうしたら増やせるか等試行錯誤しながら関わりを大切にしてきた。パートナー個人の力量の差はあるが関わる事で笑顔やニーズ、精神的に安心できる空間作り等を目指してやってきた。28年度にも引き続き課題は残る認知症ケア(生活全体)をチームとして深めていく。
業務改善	申し送り時間の短縮		管理日誌を作成し申し送り時間の短縮につなげるようにしたが上手く使用できていない。申し送りだけに着目すると短縮できている。申し送りの中身や管理日誌の使用方法等課題が残る。
	パートナー間の意識の統一		4月に大掛かりな異動があり異動してきた者、新入職員等に教えることでバタバタしてしまい上手くコミュニケーションや意思疎通ができない時期があった。役職者として上手くまとめることができていない現状が現在も続いている。コミュニケーション不足から生じる行き違いや情報共有が上手くいかない事がある。面談を通じて法人理念やプリランテの方向性の話をする機会を持ったが改善できた点と改善できていない点がある。意識(方向性)の統一として来年度の課題として残る。
人材組織力の強化	人権意識の高いパートナーの育成		面談では理念について話をする機会を持っているが人権意識が高まるような取り組みが行えていない。第三者評価でも指摘されたが権利擁護の内部研修も必要である。
	働き続けられる職場環境作り	退職者が出ない	前年度より食事以外に60分の休憩をとるようにしたことからは休憩に対する不満の声はなくなった。賃金の好条件を求めて1名が退職、体調不良による退職者が1名でている。その他派遣職員が2名契約満了で契約を打ち切っている。退職者の穴が埋まらない状況が続いている。退職者が出ない環境作りと対策、入職者が増える取り組みをする必要がある。

平成 27 年 度 事 業 報 告 書

報告日	平成28年4月23日
部門名	総務部
責任者	松浦 養

	項目	累 計	
		稼働率	収 入
収 入 稼働率	目標		
	実績		
	差異		
	達成率		

視 点	重点取組課題	目標値	総 括
財務状況の改善	・収支状況を明確化する。	・各会計の収支を数値化し、分析する	収支状況の見方、前年との対比(稼働率等)を中心に報告を行った。対比で大きくズレが生じている点について現場に説明を求め、削減可能であれば方法についてまで打ち合わせを行った。
サービスの強化	・顧客満足度の向上	・多くの入居者の情報を知り、介護職員と連携が取れ、お客様に満足して頂けるようにする。 ・入居者・利用者・その家族・お客様に対して好印象を受ける挨拶をする。	・カンファレンスにあまり参加できなかったが、参加できた内容の情報を共有することができた。 ・他部署の部門実行計画を知り、企画等において事務所として事前準備ができ、スムーズに連携がとれた。 ・窓口で気がついておれば挨拶は出来ていたが、気がついていない時もあった。 ・施設見学に来られて、窓口だけでなく、フロアでも挨拶が出来ていた。見学者から、見学する前に特養は暗い印象であったが、見学後、職員が挨拶出来ていると誉めて頂いた。
業務の改善	・報連相の強化 ・食事に係る連携の改善	・情報管理の徹底 ・随時	・業務予定表を共有で管理し、毎日9:30に朝礼で確認。急に入った情報や、その日の情報はホワイトボードに記載し、情報の共有を行った。そのことにより、情報漏れが減った。記入漏れを防ぐため、毎回朝礼にて入力を促した。 ・パソコンの共有フォルダの整理はできなかった。 ・食事関係の連絡は、食事伝票を作成、改良したことにより連絡漏れはほぼ無くなった。 ・食事伝票のデータを共有で管理することにより、使い易くなった。
人材・組織力の強化	・人材の確保 ・人材の流出の歯止め	・次年度新卒10名目標 ・従業員満足度の向上	・新卒4名という結果であった。マイナビの個別説明会を4回実施し、9名の参加があったが採用に繋がったのは1名だけであった。学校周りを実施しなかったことが大きい。 ・職員各自が実習生に声をかけ、就職の意向を確認したり、施設のアピールをするなど人材確保に対する意識は高まった。一部の職員だけでなく全員で取り組んでいく。 ・新卒の職員で悩んでいるような様子が見受けられたが、深く話をする機会が取れなかった。腰を据えて話を聞いてあげる時間を取った方が良かったのではないかと反省する。

平成27年度事業報告書

報告日	平成28年3月31日
部門名	プライム江井ヶ島 特養
責任者	竹内 民子

	項目	累計	
		稼働率	収入
収入稼働率	目標	98.0%	329,626千円
	実績	98.6%	346,840千円
	差異	0.7%	17,214千円
	達成率	100.6%	105.2%

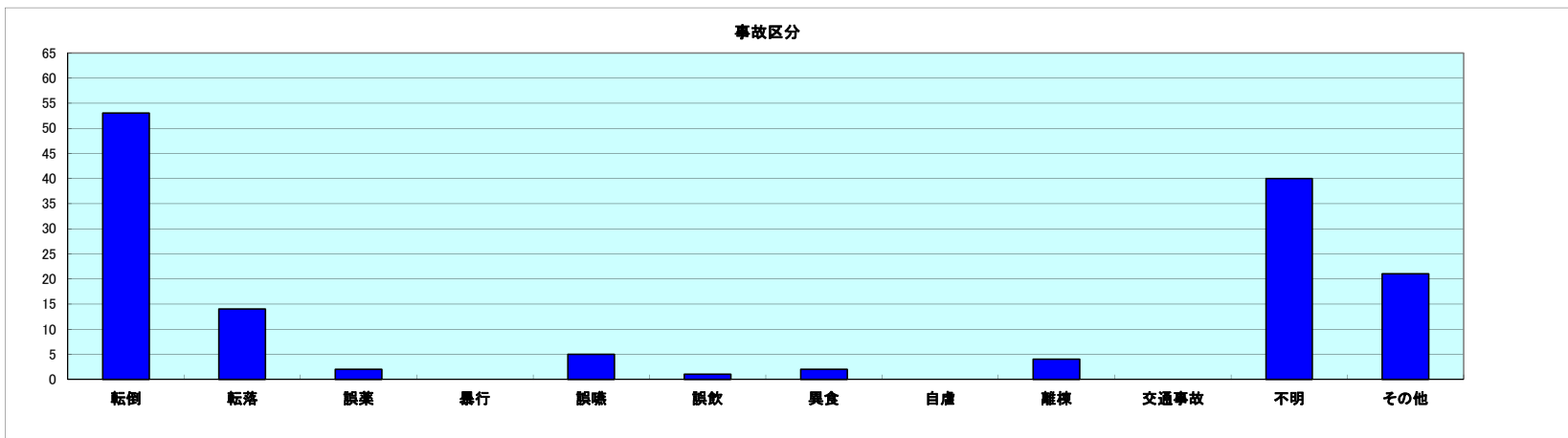
視点	重点取組課題	目標値	総括																																						
財務状況の改善	安定した収入の確保	稼働率98%	<p>【稼働率】 98.6% (上半期98.1% 下半期99.1%)</p> <p>【空室延べ日数】 346日 (新規入所に要した日数92日 入院日数254日 外泊日数0日)</p> <p>【入退所者数】 12名 (上半期8名 下半期4名)</p> <p>【入院延べ人数】 22名 (上半期12名 下半期10名)</p> <p>今年度は、稼働率に影響を及ぼすような長期入院はなく、ほぼ98%~99%台で推移した。特に入所者の状態が変化した場合には、看介護職員で情報を共有し、重症化する前に適切な医療機関で診察を受けるなどして、容態の回復に向けた速やかな対応を行った。</p> <p>また、今年度は12名の退所者のうち、長期入院により契約解除となった1名を除くと、残り11名の方の最期を施設内で看取ることができた。これは、職員が日頃から入所者の状態を注視し、情報を共有し、ケアマネが適切なタイミングで医師と家族を交えたカンファレンスを開催したこと、又、ここで最期を迎えさせたいと家族に思わせた介護職員による日頃のケアの成果であると感じた。</p>																																						
		日常生活継続支援加算の算定維持	<p>平成27年度の介護報酬改定により、本加算の算定否かが施設サービス力、しいては経営に大きな影響を及ぼすとされる中、4月以降、継続して算定を行うことができた。</p> <p>しかし、近年、市内では特養やグループホーム、サ付住宅といった入所系施設の整備が着々と進み、特養待機者、中でも要介護4、5に該当する入所申込者の占める割合が相対的に低下し、加算を継続して算定する事に苦慮した面もあった。</p>																																						
		看護体制加算Ⅱの算定	算定要件を満たした状態で、4月以降、一年を通じて算定することができた。																																						
		入院時の空床利用の実施	空床利用を必要とするケース、要望がなく実施しなかった。																																						
		おむつ代 228万円未満	<p>全体の目標値はオーバーしたものの、目標設定を各ユニットで行った結果、昨年より約30万円のコスト削減に繋がった。また、各ユニットで目標設定をしたことで、コスト意識が高まり、リーダー以外の職員からも率先して見直しの提案がなされた。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">累計額</th> <th colspan="2">目標値</th> <th colspan="2">累計額</th> <th colspan="2">目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【全体】</td> <td>2,344,847円</td> <td>></td> <td>2,280,000円 (+64,847円)</td> <td>【5丁目】</td> <td>441,443円</td> <td>></td> <td>432,000円 (+9,443円)</td> </tr> <tr> <td>【1丁目】</td> <td>364,110円</td> <td><</td> <td>384,000円 (-19,890円)</td> <td>【6丁目】</td> <td>241,701円</td> <td><</td> <td>264,000円 (-22,299円)</td> </tr> <tr> <td>【2丁目】</td> <td>341,891円</td> <td>></td> <td>288,000円 (+53,891円)</td> <td>【7丁目】</td> <td>319,040円</td> <td>></td> <td>300,000円 (+19,040円)</td> </tr> <tr> <td>【3丁目】</td> <td>355,548円</td> <td>></td> <td>324,000円 (+31,548円)</td> <td>【8丁目】</td> <td>281,114円</td> <td><</td> <td>288,000円 (-6,886円)</td> </tr> </tbody> </table>	累計額		目標値		累計額		目標値		【全体】	2,344,847円	>	2,280,000円 (+64,847円)	【5丁目】	441,443円	>	432,000円 (+9,443円)	【1丁目】	364,110円	<	384,000円 (-19,890円)	【6丁目】	241,701円	<	264,000円 (-22,299円)	【2丁目】	341,891円	>	288,000円 (+53,891円)	【7丁目】	319,040円	>	300,000円 (+19,040円)	【3丁目】	355,548円	>	324,000円 (+31,548円)	【8丁目】	281,114円
累計額		目標値		累計額		目標値																																			
【全体】	2,344,847円	>	2,280,000円 (+64,847円)	【5丁目】	441,443円	>	432,000円 (+9,443円)																																		
【1丁目】	364,110円	<	384,000円 (-19,890円)	【6丁目】	241,701円	<	264,000円 (-22,299円)																																		
【2丁目】	341,891円	>	288,000円 (+53,891円)	【7丁目】	319,040円	>	300,000円 (+19,040円)																																		
【3丁目】	355,548円	>	324,000円 (+31,548円)	【8丁目】	281,114円	<	288,000円 (-6,886円)																																		
機器類の適切な使用	<p>機器類に関しては、年間の個人目標に上げる職員が多く、各部署でも定期的にメンテナンスを実施することができた。また、水道光熱費に関しても大切な使用に努め、昨年より約246万円の削減に繋がった。ところが、物品が破損した際の届出ルールに関しては、職員全員への周知が出来ておらず再度周知させた。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">使用量</th> <th colspan="2">料金</th> </tr> <tr> <th colspan="2"><26年度></th> <th colspan="2"><27年度></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○電気</td> <td>440,298kW</td> <td><27年度></td> <td>421,805kW</td> </tr> <tr> <td>○ガス</td> <td>61,847㎡</td> <td>→</td> <td>56,434㎡</td> </tr> <tr> <td>○上下水道</td> <td>10,672㎡</td> <td></td> <td>10,122㎡</td> </tr> </tbody> </table>	使用量		料金		<26年度>		<27年度>		○電気	440,298kW	<27年度>	421,805kW	○ガス	61,847㎡	→	56,434㎡	○上下水道	10,672㎡		10,122㎡																				
使用量		料金																																							
<26年度>		<27年度>																																							
○電気	440,298kW	<27年度>	421,805kW																																						
○ガス	61,847㎡	→	56,434㎡																																						
○上下水道	10,672㎡		10,122㎡																																						

視 点	重点取組課題	目 標 値	総 括
サービス力の強化	介護サービスの質の向上	現状の生活に連動したケアプラン	平成27年9月監査で見直し期間の指導を受け、見直し期間を最長6カ月までとし、その期間内に家族の同意まで得られるように取り組み、開示までは予定月までに行っている。2表作成については、職員の能力によって差はあるが、実情に基づいたプランが担当者中心になって作成できるようになった。24時間シートについてはソフトの導入を検討し、5月から7月にかけてデモンストレーションを行った。ソフトでだけは利用者の生活を個別に支援するには不足している物が多く、職員の労力も今まで以上にかかるかと判断され、導入は見送りとなった。シート作成については個別に指導を行い、2、3か月毎のモニタリング時に今の生活との違いを修正し、ケアプラン見直し時に新しいシートの作成を行っている。細かすぎて動けないという指摘を受け、24時間シートの役割についてリーダー会で話し合い、シートの役割と意義を確認した。
		看取り介護体制の強化	6月に開催した看取り介護の振り返りでは、各ユニット、医務室、相談室、栄養士から様々な意見が聞かれた。その中で部署間の情報共有とケアの統一が図れていない事が現状の課題として上がった。その課題をふまえ、看取り開始時期はもちろんのこと看取り介護終了後にも必ずカンファレンスを開催し、次の看取り対象者のケアに繋げていくことを職員の共通の認識とし、指針についても修正を行った。しかし、ルールは作ったものの実行に移すまでには至らず、話し合いの成果は出なかった。結果として、看取り介護加算を算定するところまで到達することもできず、体制強化には至らなかった。
		宿泊温泉旅行の実施	入居者のかねてからの希望であった温泉旅行を計画し、11月の実施に向けて4月にスケジュールを立て取り掛かった。当初は一泊旅行を計画していたが、入居者の費用負担が大きく日帰りに変更した。貸切風呂が利用できる旅館を調査・訪問し、入居者が安全に温泉を満喫できる環境にあるか等確認を行った。調査結果についてはリーダー会議で報告したが、日帰り旅行とはいえ入居者の費用負担が大きく、温泉旅行は見送りとなった。
	入居者の筋緊張の緩和による不良姿勢の改善	ポジショニング、シーティングの効果を知り、取り組むことが出来る	5月、希望者のみを集め、ポジショニングの勉強会を開いた。6月と7月には、練テープにポジショニングの出張セミナーを依頼し、看介護職員全員が受講することでポジショニングへの知識・技術を高めた。8月より、ポジショニングの勉強会を再開した。1月の勉強会からはシーティングについても取り組んだ。3月に行う予定であった報告会は、勤務調整がつかず、平成28年4月に報告会を行うこととなった。今年度は、ポジショニングについては、施設全体で取り組む事が出来たが、シーティングについては、ごく一部の参加者だけでの取り組みとなった。
	介護事故発生後の対応強化	事故発生後の受診、連絡体制について方針を確立する	介護事故発生後、受傷や容態に応じて最適なタイミングで医療機関へ受診できるようにする為、リスクマネジメント委員会様子観察レベルから即受診レベルまでの判断基準を作り、職員に周知した。あくまで職員間で考えを統一するために作成した基準であり、万が一事故が発生した場合には、家族と施設の関係性も考慮した上で受診の判断を行うこととした。今年度は、事後対応の遅れでクレームに繋がるケースはなかった。
業務の改善	業務の効率化と残業の管理	業務の省力化	4月に下用タオルのリースを導入した。リースを導入した事で洗濯機の稼働時間が短くなり、消耗品の購入費用や修理費用、水の使用量を減らすことができた。中でも洗濯機の故障頻度に関しては想像以上の効果が表れた。同時に、職員の洗濯業務への負担もリース導入により軽減された。給食会議については、開催頻度を月1回から2ヶ月に1回に変更し、会議の合理化を図った。
		休憩時間の確保と居残り解消	休憩の取得に関しては、前年度からの継続課題として今年度も取り組んだ。全ユニットで休憩を取ろうとする取り組みは見られつつあり、体を休める必要性についても概ね職員への理解は浸透した。しかしながら、入居者の身体の状態が各ユニットで異なることもあり、取得時間に多少のばらつきは見られるものの、工夫して取ろうとする意識は高まっている。
人材・組織力の強化	職員の資質向上	外部研修の伝達講習の仕組みを構築する	5月、外部研修を受講するためのルールとして、受講希望者は外部研修受講伺い書を作成・提出し、施設長の決裁を受けることとした。6月に東播磨ブロック研修を受講し、7月に伝達講習会を開催、その後伝達講習のモニタリングを実施した。モニタリングでは、伝達する目的や、方法、回数、開催日時、対象者等、細かい仕組みについて話し合いをし、担当者へ過度に負担がかからないようルール作りを行い、下半期は、2月と3月に伝達講習会を実施した。
		一人ひとりの成長に合わせた外部研修への参加	
		ユニットの成長	・6月7月に食事、8月9月に排泄、10月11月に入浴の振り返りを各ユニットで行った。現状のケアの把握と課題に対して話し合い、今後のケアに活かすことが出来た。他ユニットへの研修については、人員が安定しないこともあり実施出来なかった。また、市内のユニット型特養の見学に関しても話の進展がなく実施には至らなかった。施設内研修では、①食中毒予防②基本動作③口腔ケア④ポジショニング⑤看取り期における接遇⑥看取り介護⑦感染対策⑧リスクマネジメントについて、計画通り開催した。

平成27年度 介護事故データ

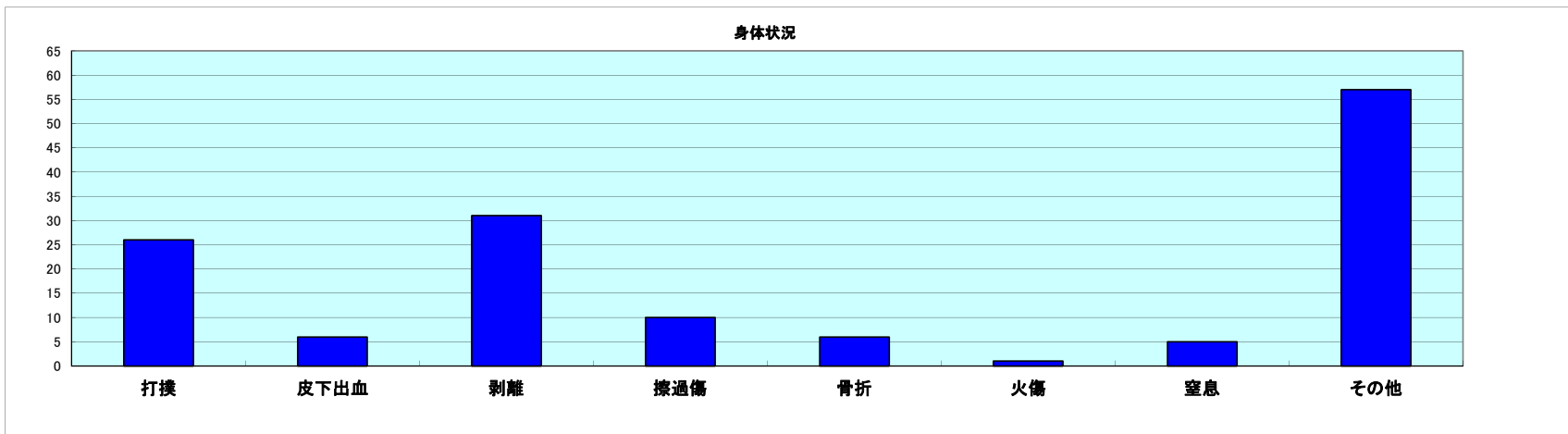
◆事故区分

	転倒	転落	誤薬	暴行	誤嚥	誤飲	異食	自虐	離棟	交通事故	不明	その他	合計
件数	53	14	2	0	5	1	2	0	4	0	40	21	142



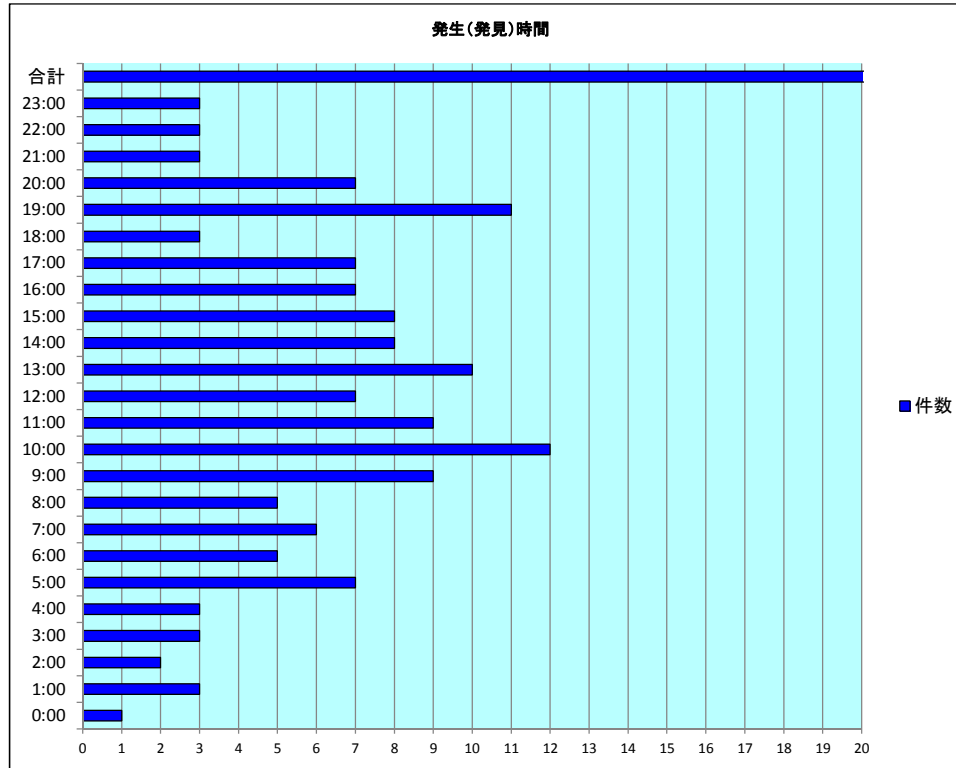
◆事故による身体状況

身体状況	打撲	皮下出血	剥離	擦過傷	骨折	火傷	窒息	その他	合計
件数	26	6	31	10	6	1	5	57	142



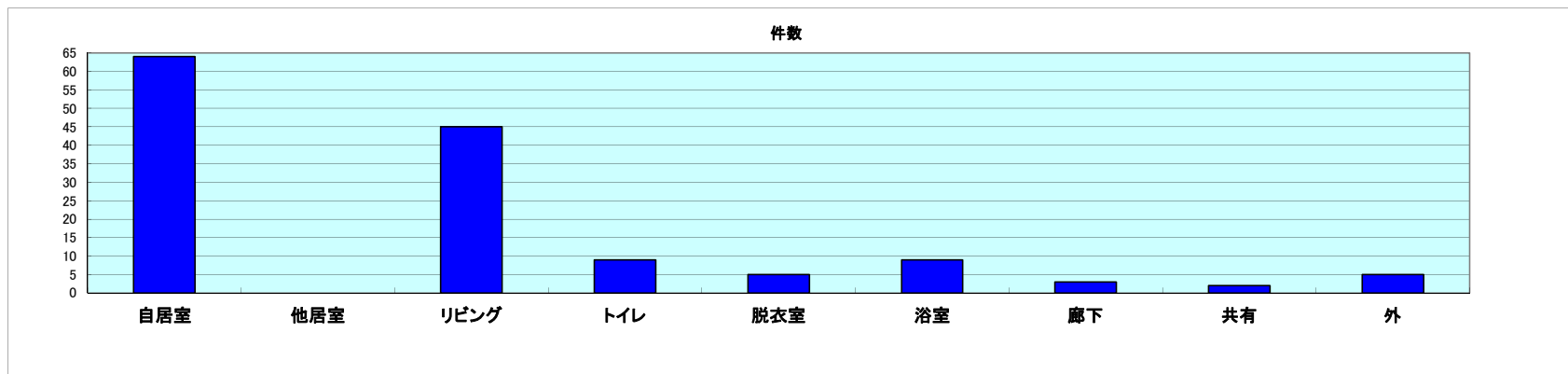
◆事故が発生した時間

発生時間	件数
0:00	1
1:00	3
2:00	2
3:00	3
4:00	3
5:00	7
6:00	5
7:00	6
8:00	5
9:00	9
10:00	12
11:00	9
12:00	7
13:00	10
14:00	8
15:00	8
16:00	7
17:00	7
18:00	3
19:00	11
20:00	7
21:00	3
22:00	3
23:00	3
合計	142



◆事故の発生場所

場所	自居室	他居室	リビング	トイレ	脱衣室	浴室	廊下	共有	外	合計
件数	64	0	45	9	5	9	3	2	5	142



平成27年度 ボランティア活動受け入れ実施報告

音楽療法	1名	大学講師
カラオケ	1名	個人
美化活動 入居者との交流	9名	神戸学院大学 須磨ノ浦女子高等学校
秋祭り	17名	神戸学院大学 神戸医療福祉専門学校 須磨ノ浦女子高等学校
餅つき	10名	ボランティアグループ 入居者家族

平成27年度 施設内研修実施報告

実施日時		研修内容	担当	参加人数
4月16日(木)	14:00~15:00	ユニットケアと24時間シート	竹内課長、市野	4名
〃	15:00~16:00	プライムの食事	小原	3名
4月18日(土)	15:00~16:00	医務の仕事	木谷	3名
4月20日(月)	11:00~12:30	食事ケア	横岩	3名
〃	14:00~15:00	排泄ケア	大野	3名
4月21日(火)	16:30~17:30	寝返り、起き上がり、立ち上がり	植田	3名
4月22日(水)	15:30~16:30	バリデーション DVD鑑賞	竹内課長	2名
〃	16:40~17:30	寝返り、起き上がり、立ち上がり	植田	3名
4月23日(木)	9:30~11:30	入浴ケア(実技)	岡田、屋本	4名
〃	14:00~15:00	入浴ケア(座学)	岡田、屋本	4名
4月28日(火)	16:40~17:30	寝返り、起き上がり、立ち上がり	植田	3名
5月1日(金)	9:00~16:00	高齢者体験研修	竹内課長、植田	4名
5月11日(月)	15:30~17:00	寝返り、起き上がり	市野、福井	13名
5月14日(木)	15:00~15:40	食中毒の予防	小原	14名
5月24日(日)	16:00~18:00	ポジショニング	岡田、福井、谷	10名
5月26日(火)	15:30~17:00	寝返り、起き上がり	屋本、大野	9名

5月28日(木)	16:00~17:00	口腔ケアセミナー(相互実習)	デンタルサポート(株)	22名
6月8日(月)	15:30~17:00	立ち上がり、座り直し、移乗	横岩、西内	12名
6月12日(金)	15:00~16:00	ポジショニング	ケーブ	18名
6月23日(火)	15:00~16:00	ポジショニング	ケーブ	21名
6月26日(金)	15:30~17:00	立ち上がり、座り直し、移乗	岡田、谷	10名
6月	不規則	基本のき(食事の振り返り)	ユニットリーダー	24名
7月2日(木)	16:00~17:00	看取り期における接遇マナー ご遺体への対応	タルイ会館	20名
7月6日(月)	15:30~17:00	寝返り、起き上がり	横岩、西内	11名
7月10日(金)	15:00~16:00	ポジショニング	ケーブ	15名
7月17日(金)	15:00~16:00	ターミナル期の高齢者の身体の変化	木谷、岩本	21名
7月24日(金)	15:30~17:00	寝返り、起き上がり	岡田、谷	11名
7月30日(木)	16:00~17:00	伝達講習「排泄ケアで変わる認知症ケア」	市野、西内、橘(い)、桑田、山元	14名
7月	不規則	基本のき(食事の振り返り)	ユニットリーダー	24名
8月7日(金)	15:30~17:00	立ち上がり、座り直し、移乗	屋本、大野	8名
8月27日(木)	15:30~17:00	立ち上がり、座り直し、移乗	市野、福井	13名
8月29日(土)	16:00	ポジショニング	岡田、福井、谷	8名
8月	不規則	基本のき(排泄の振り返り)	ユニットリーダー	24名
9月11日(金)	15:30~17:00	寝返り、起き上がり	西内、横岩	8名
9月20日(日)	16:00~18:00	ポジショニング	岡田、福井、谷	7名
9月21日(月)	15:30~17:00	寝返り、起き上がり	市野、福井	11名
9月	不規則	基本のき(排泄の振り返り)	ユニットリーダー	24名
10月16日(金)	15:00~	感染症対策	湯浅、橘(紀)、竹内(麻)、白木、植田	23名
10月22日(木)	15:30~17:00	立ち上がり、座り直し、移乗	岡田、谷	9名
10月23日(金)	15:00~	感染症対策	湯浅、竹内課長、松岡、吉川	17名
10月24日(土)	16:00~18:00	ポジショニング	岡田、福井、谷	9名
10月29日(木)	15:30~17:00	立ち上がり、座り直し、移乗	大野、屋本	7名
10月30日(金)	15:00~	感染症対策	湯浅、小原、桑田、井上、粕谷	17名
10月	不規則	基本のき(入浴の振り返り)	ユニットリーダー	24名
11月11日(水)	15:30~17:00	寝返り、起き上がり	岡田、谷	7名
11月23日(月)	15:30~17:00	寝返り、起き上がり	西内、横岩	6名

11月28日(土)	16:00～18:00	ポジショニング	岡田、福井、谷	8名
11月	不規則	基本のき(入浴の振り返り)	ユニットリーダー	24名
12月9日(水)	15:30～17:00	立ち上がり、座り直し、移乗	市野、福井	5名
12月24日(木)	15:30～17:00	立ち上がり、座り直し、移乗	大野、屋本	8名
1月13日(水)	15:30～17:00	寝返り、起き上がり	岡田、谷	5名
1月23日(土)	16:00～18:00	ポジショニング	岡田、福井、谷	7名
1月25日(月)	15:30～17:00	寝返り、起き上がり	大野、屋本	5名
2月10日(水)	15:30～17:00	リスクマネジメント(転倒事故は減らせる)	吉留、米田、山元、小原	18名
2月17日(水)	15:30～17:00	リスクマネジメント(転倒事故は減らせる)	古川、西内、井上	16名
2月24日(水)	15:30～17:00	リスクマネジメント(転倒事故は減らせる)	松澤、岩本、植田	15名
2月28日(日)	16:00～18:00	ポジショニング	岡田、福井、谷	6名

平成27年度 法人研修出席報告

実施日時		研修内容	講師	出席者
7月3日(金)	16:00～18:00	リーダー研修	榎本圭太先生	副主任以上
7月3日(金)	18:30～20:30	職員全体研修	榎本圭太先生	一般職員(非常勤職員も含む)
9月4日(金)	16:00～18:00	リーダー研修	榎本圭太先生	副主任以上
9月4日(金)	18:30～20:30	職員全体研修	榎本圭太先生	一般職員(非常勤職員も含む)
9月13日(日)	13:00～17:00	介護技術研修	福辺節子先生	全職員
10月2日(金)	16:00～18:00	リーダー研修	榎本圭太先生	副主任以上
10月2日(金)	18:30～20:30	職員全体研修	榎本圭太先生	一般職員(非常勤職員も含む)
10月27日(火)	10:00～16:00	介護技術研修	福辺節子先生	ユニットリーダー+竹内(麻)、松岡
11月6日(金)	16:00～18:00	リーダー研修	榎本圭太先生	副主任以上
11月6日(金)	18:30～20:30	職員全体研修	榎本圭太先生	一般職員(非常勤職員も含む)
11月9日(月)	9:00～18:00	中途採用者研修	法人職員	大川、専野
11月10日(火)	9:00～18:00	中途採用者研修	法人職員	大川、専野
11月17日(火)	10:00～16:00	介護技術研修	福辺節子先生	ユニットリーダー+竹内(麻)、松岡
12月10日(木)	10:00～16:00	介護技術研修	福辺節子先生	ユニットリーダー+竹内(麻)、松岡

1月7日(木)	16:00～18:00	リーダー研修	榎本圭太先生	副主任以上
1月26日(火)	10:00～16:00	介護技術研修	福辺節子先生	ユニットリーダー＋竹内(麻)、松岡
2月12日(金)	16:00～18:00	リーダー研修	榎本圭太先生	副主任以上
3月11日(金)	14:00～15:30	介護技術研修	プリランテ明石入居者の家族	永井、中川、5丁目
3月14日(月)	10:00～16:00	介護技術研修	福辺節子先生	ユニットリーダー＋竹内(麻)、松岡
3月17日(木)	10:00～11:00	救急対応	救急隊	竹内課長、植田、横岩、佐藤

平成27年度 施設外研修受講報告

実施日時	研修内容	場所	参加人数	
6月2日(火)	10:10～17:00	老人福祉施設新任職員研修	兵庫県社会福祉協議会 社会福祉研修所	2名
6月25日(木)	10:15～15:30	東播磨ブロック研修「排泄ケアで変わる」 なるほどなっとく認知症ケア	小野市うるおい交流館エクラ	6名
6月20日(土)	9:30～17:00	介護福祉士実習指導者講習会	兵庫県福祉センター	1名
7月5日(日)	9:30～16:30	介護福祉士実習指導者講習会	兵庫県福祉センター	1名
7月15日(水)	9:30～17:15	介護福祉士実習指導者講習会	兵庫県福祉センター	1名
7月26日(日)	9:30～17:35	介護福祉士実習指導者講習会	兵庫県福祉センター	1名
9月8日(火)	11:00～16:00	東播磨ブロック研修 「高齢者施設における転倒事故は減らせる！」	小野市うるおい交流館エクラ	7名
10月7日(水)	10:00～16:00	東播磨ブロック研修 「する人される人、どちらも幸せになる介助術」	小野市うるおい交流館エクラ	7名
10月23日(金)	10:30～16:30	施設における感染対策とリスクマネジメント	総合リハビリテーションセンター	2名
1月21日(木)	10:00～16:00	スタッフ・介護職を育てるために何が必要か	小野市うるおい交流館エクラ	1名
1月25日(月)	14:00～16:10	平成27年介護報酬改定にともなう加算取得方法 に関する研修会	兵庫県福祉センター	1名
1月28日(木)	13:30～16:30	兵庫県認定調査員研修	兵庫県庁西館	1名
3月8日(火)	14:00～16:00	高齢者施設における感染症対策研修会	明石健康福祉事務所	2名
3月17日(木)	14:00～15:30	歩けないと諦めていませんか？ ～歩行補助具を選ぶときのコツ～	清水の家・仁十1階	3名

報告日	平成28年3月31日
部門名	プライム江井ヶ島ショートステイサービス
責任者	横岩 大輔

	項目	累計	
		稼働率	収入
収入稼働率	目標	90.0%	42,976千円
	実績	83.9%	41,321千円
	差異	▲6.1%	▲1,655千円
	達成率	93.2%	96.1%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	安定した収入の確保	稼働率90%	ロング利用者を3名にしたが、1名が入院してからの対応が十分できなかった。空室が出れば、素早く対応して目標稼働率の達成を行う予定であったが利用者の確保ができなかった。積極的に直接各事業所へ足を運ぶことにより、今後利用を検討する意志のある利用者の情報を入手することができた。
		新規利用者のうち半数以上をリピーターにする	新規利用者23名中、リピーターは16名あったが2回目以降の利用日数が少なく定期的な利用につながっていない。利用者本人や家族の利用目的に沿ったサービスを提供し、今後も継続した利用をしてもらえるようにする。また、週末や祝祭日利用を希望する利用者が多かったため、比較的空室が多い平日の利用の提案をしなければならない。
		おむつ代18,000円未満/月	月平均18,719円と目標値以下にならなかった。11月以降は19,000円以上が継続した。利用者の排泄状況に対してパットやオムツの使用方法が定期的に出来なかった。また、特養と異なり、日々利用者が入れ替わり、各々のレベルに対応する困難さを痛感した。
		機器類の適切な使用	電気、エアコンの点検がなければ、職員同士が注意し合う等職員の意識は高まってきた。備品・機器類の破損や不調は経年劣化によるものが多くなるつつある。
サービス力の強化	介護サービスの質の向上	定期利用者の介護方法の見直しを行い、ケアの統一を行う	定期利用者の約半数(16件)のケアプランの更新を行ったが、全員分は出来なかった。ケアプランは今後も随時更新し介助に活かす。食事、入浴など直接介助については話し合ったが次年度以降に持ち越すことになった。
	利用者が主体的に暮らせる機会の提供	毎月1回以上の実施	利用者個々の希望に合わせた外出や季節を感じてもらえるような外出を行うことが出来たが、全ての利用者を実施することができなかった。
	利用者の筋緊張緩和による不良姿勢の改善	ポジショニング、シーティングの効果を知り、取り込むことが出来る	職員全員でポジショニング、シーティングに取り組むことが出来なかった。次年度の課題として残った。
業務の改善	業務の効率化と残業時間の管理	業務の省力化	入所者の荷物チェックについては、チェック表を改善して取り組んだ。まだ完全とは言えないが以前よりも注意してチェックが出来、ミスが減少してきた。必要な時間帯に必要な職員を配置することによって、業務の見直しと相俟って効率的かつ正確に業務をこなせる見通しがたった。
		休憩時間の確保と居残り時間の短縮	1時間は確保出来ていないが、休憩時間は取得できるようになってきた。居残り時間については他の職員の協力を得るとともに業務の優先順位を意識して行うことによって時間が短縮しつつある。
人材・組織力の強化	職員の資質の向上	一人ひとりの成長に合わせた外部研修への参加	委員会等で外部研修への参加が出来た職員はいたが、参加可能な研修がなかったりして、全員が外部研修に参加することが出来なかった。

平成27年度事業報告書

報告日	平成28年3月31日
部門名	プライム江井ヶ島 デイサービス
責任者	西海 和彦

	項目	累計	
		稼働率	収入
収入 稼働率	目標	66.7%	43,234千円
	実績	54.8%	36,116千円
	差異	▲11.9%	▲7,118千円
	達成率	82.1%	83.5%

視点	重点取組課題	目標値	総括
財務状況の改善	利用者数の増大	1日当たり20人 (稼働率66.7%)	今年度は、制度改正に伴い減収及び新規利用者獲得のハードルが高くなっていく中、目標稼働率を下げ達成に向けて取り組んでまいりました。プライムに居宅が出来、新規利用者の紹介を期待していましたが、立ち上げ初年度と言うこともあり、1名に留まりました。他居宅には、月初の居宅回りにて各利用者の状況報告及び月間空き状況のチラシ配布等行ってきました。結局、新規利用者7名の獲得に繋がりました。利用中止者として入所2名、死亡2名、更新の関係1名。休止者として、自宅療養1名との結果となりました。総評として、レクリエーション面では努力してまいりましたが、前年度同様ソフト、ハード面に対してこれといった特徴がなく、ケアマネに対して強い印象を与えることができませんでした。
		日常のレクを充実する	毎月、特に利用者数の少ない曜日に評判の高い行事(買物、外食、お花見、音楽コンサート等)を企画し、各利用者に追加利用を呼びかけ、稼働率アップに繋げるように努めてきました。結果、特定の利用者に限られての追加利用となり、大幅なアップには繋がりませんでした。 ケアマネに利用者の利用中の様子を報告する手段として、日常行っているレクリエーションの様子(体操、ゲーム、お花見、季節行事等)を写真撮りし情報提供を行うとともにデイのPRIに努めてきました。 前年度に引き続き、PR活動の一環としてブログの更新を継続してきました。今年度は、工作教室に力を入れていたので皆さんの作品を載せたり、ボランティアによる音楽コンサート等楽しんでいる様子をアップしてきました。今後も各職員の見解を取り入れタイムリーな行事写真を多く載せていくことにより、より見て貰えるように努めていきたいと思っております。
	加算体制の強化	加算対象になる利用者を積極的に発掘する	制度改正に伴う減収分を補うため、個別機能訓練対象者を増やし加算アップに繋げようと思っておりましたが、指導監査で算定要件に満たしていない事が指摘され、急遽、個別機能訓練加算取得の要件を見直しをするため中断となりました。今後、精査し個別機能訓練再開に向けて検討していきたいと思っております。
サービス力の強化	年間行事の充実	日々のレクを充実	毎月のレク会議にて、レク企画が利用者ニーズに対応出来ていたか評価をしたところ、定番となっている買物、外食、ボランティアによる川柳教室、書道、音楽コンサート等は好評で継続して行なってきました。職員が考えた工作教室も季節に応じた企画も取り入れ喜んで貰いました。また、全体的に好んで歌を聞いたり、歌ったりすることを好む利用者が多いのでカラオケ大会も好評でした。
		ボランティアの活用	あかねが丘学園(川柳教室、音楽コンサート、囲碁等)、ハーモニカ演奏、声楽・ピアノによるコンサート、ジャズコンサート等は、今年度も定番として行ってきました。季節行事では、夏祭り(阿波踊・太鼓、ハワイアンコンサート)、敬老会(電子大正琴)、年忘れ会(初めてのボランティアとしてマジックショー)と多種多彩の企画に利用者も好評で楽しんで貰いました。
		利用者アンケート	前年度に引き続き、アンケート調査を行いました。結果、去年同様、特に問題ない利用者が大半でしたが、少なからずの意見として、レクの要望、接遇面等ありました。今後、小さな意見でも検討課題として話し合い改善していきたいと思っております。
		接遇の改善	日常業務において、長年利用者として接している接遇面(あいさつ、言葉遣い等)で気になる所が感じられてきましたので、業務中で気になれば注意喚起してきました。しかし、一時的に改善するも元に戻ってしまうので定期的に職員間で意識するように心掛けてきました。

視 点	重点取組課題	目 標 値	総 括
サービス力の強化	家族との関係強化	レクカレンダーの充実	利用者に毎月の行事及び利用日の確認としてレクカレンダーを配布してきましたが、見ていない利用者、家族もおられ、もう少しインパクトのあるカレンダーを作る事により、より見て貰えないか検討してきました。これまでカレンダーの部分だけだったのを毎月の行事写真や川柳教室、書道での作品を載せて配布するように改善しました。利用者自身の写真等載っているので反響がありました。
		第三者からの提案	利用者、家族の意見だけではなく第三者からの意見も取り入れサービスの改善に取り組んできました。
	通所介護計画書及び個別機能訓練計画書の作成	計画的な確認	本年度は、指導監査があり、各担当者に通所介護計画書等、各利用者の期日、評価、見直しの漏れがないか確認して貰い実施することができました。
業務の改善	労働環境の改善	事務作業等業務の省力化	各職員が、処理すべく事務処理(レクの準備、行事企画、報告書、通所介護計画書、ブログ更新等)があれば日常業務に差し支えない時間帯を利用して各自処理して貰う事により、定時で終わるように努めてきました。
	環境改善	デイホール全体の美化を図る	前年度に引き続き、デイルーム内の美化意識を各自持って貰いました。定期的に声掛することにより、各職員が少しずつ改善する意識芽生えてきました。
	原価意識の高揚	経費節減	レク用品、文具等を大事に使用して貰うように定期的に声掛けし意識付けしてきました。備品購入時には原価意識をもって購入してきました。また、電気、水道の使用も節約意識を持って努めてきました。
人材・組織力の強化	介護のプロ意識向上	介護技術取得等専門性を高める努力をする	今年度は、主な研修として、「楨本先生による職員研修」、「福辺先生による介護技術研修」、また施設外研修として「介護現場での認知症予防研修」等で学んだことを内部研修を実施し、他の職員にフィードバックして貰い知識・技術を高めるように取り組んできました。

平成27年度事業報告書

報告日	平成28年3月31日
部門名	プライム江井ヶ島 居宅介護支援
責任者	福田 達雄

	項目	累計	
		稼働率	収入
収入 稼働率	目標		10,080千円
	実績		3,107千円
	差異		▲6,973千円
	達成率		30.8%

視点	重点取組課題	目標値	総括
安心できる相談窓口体制を整える。	<ul style="list-style-type: none"> 生活上の些細な事柄にも真摯に受け止め、できる限りの対応を行う。 地域の方々との顔なじみの関係を構築できるよう、行政、地域包括支援センター、在宅介護支援センターなどの公的機関並びに病院やサービス提供事業所、民生委員をはじめとした地域の方々とも連携し、様々な地域での取り組みに積極的に参加する。 		<p>平成27年4月に新規事業所として開設したため、東西の地域包括支援センター・各在宅介護支援センターからの個々様々な紹介依頼ケースを中心に、事業所としてできる限り断らないよう他対応、平成27年度は50件を超える紹介依頼ケースを受付して対応することができた。個々それぞれのケースの状況で、紹介依頼ケース全てを「ケアマネジャー」として担当することはできなかったが、個々のケースに応じてご本人やご家族の思いや意向を傾聴するよう、事業所として対応することができた。また事業所として対応困難と思われるケースに関しては、その人にとって「一番よい」と思われる方法を考え、必要に応じて、各関係機関に連絡・相談するように支援した。</p> <p>「安心できる相談窓口体制を確立」を目指し、市役所・明石健康福祉事務所(保健所)などの行政機関、東西の地域包括支援センター、市内の各在宅介護支援センターの公的機関を適時訪問、担当者に直接お会いして情報交換するとともに「プライム江井ヶ島居宅介護支援事業所」として周知してもらうように努めた。また、市内病院や医院・クリニック、各種介護保険サービス事業所にも可能な限り訪問して、居宅介護支援事業所を周知してもらえるようにした。また「江井ヶ島地区のサービスゾーン会議」にも参加、地域の方との関係構築の足掛かりとしながら、在宅介護支援センターが開催する「いきいき生活塾」(地域住民向け啓発・健康増進等)にも参加させていただき、地域の方にとってなじみの関係を構築できるように努めた。</p>
業務内容の理解、遂行	<ul style="list-style-type: none"> 居宅介護支援事業所としての支援業務の確立 		<p>今年度、新規事業所として開設したため、まず各種公的申請書類や契約書・重要事項説明書、経過記録用紙など、業務に必要な書類の全てを一通り準備、スムーズに業務遂行が行えるよう環境を整備した。また、法令順守に努め、国保連合会や包括支援センターへの請求業務手順をマニュアル化する等、介護支援専門員が行うべき居宅介護支援業務、ケアプラン作成や給付管理に関する業務に関して誰もが理解でき正しく実施できるようにした。</p> <p>また年度を通して、より効率かつ効果的な事業運営ができるようにすることを意識し、新たに相談ケース依頼があれば、その都度情報を共有して事業所として支援ができるように努めた。</p>
財務状況の改善	<ul style="list-style-type: none"> 収入月額50万円を達成する(年度末) 特定事業所加算Ⅲを取得する。 	給付管理(介護)20万円 給付管理(予防)20万円 認定調査 10万円	<p>収入月額を意識し、「要介護ケース」「介護予防ケース」「認定調査」を可能な限り受諾するようにした。7月から1名増員となったことで、少しずつ件数を増やすことができるようになり、東西の地域包括支援センター・市内の各在宅介護支援センター等からの紹介依頼ケースは、できる限り断らずに受け入れるようにした。年間で50件を超える新規依頼ケース、90件を超える認定調査を受託してそれぞれ対応したが、対応困難なケース、在宅サービス(介護保険利用)に至らないケース、体調急変による入院(短期・長期を含む)やご逝去、施設への入所等により、件数が伸びなかった。</p> <p>東西の地域包括支援センター・市内の各在宅介護支援センター等を訪問したり、ケース対応受諾可能な旨を文書で送付することも行なったが、ケースを紹介して頂くことは少なく、結果として年度目標としていた「月額50万円」を達成することはできなかった。</p> <p>特定事業所加算Ⅲ取得については、現時点で取得要件(人員数)を満たすことが出来なかったため、次年度以降の課題として残った。</p>

プライム江井ヶ島データ

平成27年度プライム江井島 特養要介護度別分布表(平成28年3月31日)

要介護度	男	女	計	構成比率
要介護1	0	1	1	%
要介護2	0	4	4	%
要介護3	4	11	15	%
要介護4	7	18	25	%
要介護5	4	21	25	.%
計	15	55	70	100%
平均要介護度	4.0	4.0	4.0	

平成27年度 プライム江井島 特養年齢分布表(平成28年3月31日)

年齢区分	男	女	計	構成比率
60歳未満	0	0	0	0%
60歳～64歳	0	0	0	0%
65歳～69歳	1	1	2	2.9%
70歳～74歳	2	1	3	4.3%
75歳～79歳	3	2	5	7.1%
80歳～84歳	3	11	14	20.0%
85歳～89歳	4	22	26	37.1%
90歳～94歳	2	13	15	21.4%
95歳～99歳	0	3	3	4.3%
100歳以上	0	2	2	2.9%
計	15	55	70	100%

最高年齢 102歳 最低年齢 65歳 平均年齢 歳 86.2(男性 81.7歳 女性 87.4歳)

平成27年度 プライム江井島 特養稼働状況表

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

	入所	退所	退所理由	入院日数	外泊日数	空床数	実日数	所定日数	稼働率
4月	1	2	死亡	24	0	5	2,071	2,100	98.6%
5月	2	1	死亡	47	0	13	2,110	2,170	97.2%
6月	1	1	死亡	46	0	10	2,044	2,100	97.3%
7月	2	4	死亡	5	0	27	2,138	2,170	98.5%
8月	2	0		15	0	5	2,150	2,170	99.1%
9月	0	0		41	0	0	2,059	2,100	98.0%
10月	1	1	長期入院	12	0	6	2,152	2,170	99.2%
11月	0	0		11	0	0	2,089	2,100	99.5%
12月	2	3	死亡	16	0	20	2,134	2,170	98.3%
1月	1	0		28	0	6	2,136	2,170	98.4%
2月	0	0		0	0	0	2,030	2,030	100.0%
3月	0	0		9	0	0	2,161	2,170	99.6%
計	12	12		254	0	92	25,274	25,620	98.6%

平均入所期間 4年2ヶ月 (男性 3年10ヶ月、 女性 4年3ヶ月)

平成27年度プライム江井ヶ島ショートステイサービス稼働状況表

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延利用者数(人)	249	244	254	265	265	259	
1日当り利用者数(人)	8.3	7.9	8.5	8.5	8.5	8.6	
稼働率(%)	83.0	78.7	84.7	85.5	85.5	86.3	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ利用者数(人)	275	260	256	241	240	263	3,071
1日当り利用者数(人)	8.9	8.7	8.3	7.8	8.3	8.5	8.4
稼働率(%)	88.7	86.7	82.6	77.7	82.8	84.8	83.9

平成27年度プライム江井ヶ島デイサービス稼働状況表

(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延利用者数(人)	376	356	362	355	306	323	
1日当り利用者数(人)	17.1	17.0	16.5	16.1	15.3	14.7	
稼働率(%)	57.0	56.5	54.8	53.8	51.0	48.9	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ利用者数(人)	333	325	335	309	343	378	4,101
1日当り利用者数(人)	15.1	15.5	16.0	15.5	16.3	16.4	16.0
稼働率(%)	50.5	51.6	53.2	51.5	54.4	54.8	53.2